

平成24年度教室実習型研修(日本語教室)実施報告



【内容】

- ・ 概要
- ・ 基本方針

・ 1期 (p.4)

試行教室プログラム内容、ポートフォリオ作文リスト1、学習のふりかえりシート

・ 2期 (p.11)

日本語コミュニケーションワークショップ第1回～第4回

・ 3期 (p.20)

初期日本語教室プログラム内容、ポートフォリオ作文リスト2、『できる日本語 初級』
できること一覧、支援者用チラシ、体験研修の様子、インタビューシート、体験研修
(受講者の振り返り)、体験研修 (講師から)

・ 総括 (p.39)

「教室実習型研修」とは

※学習者にとっては日本語教室 (学習機会の提供)

※支援者にとっては教室活動の観察・体験

1期・2期の試行を経て、3期に研修を実施しました。

教室名：「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」

研修名：「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修

平成25年3月 公益財団法人 横浜市国際交流協会

平成 24 年度教室実習型研修(日本語教室)概要

- 1 **目的**
 - ・横浜市における「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動の充実を図る。
 - ・横浜市における公的日本語教室のあり方を検討する。

- 2 **内容**

教室実習型研修のプログラムの企画・試行の後、教室実習型研修を実施

 - *教室実習型研修とは
 - ・学習者にとっては日本語教室（学習機会の提供）
 - ・支援者にとっては教室活動の観察・体験
 - *教室の名前を「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」とした。
 - *研修の名前を「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修とした。

- 3 **基本方針**
 - ・実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動→学習者の自立・自己実現・社会参加
 - ・日本人と外国人双方の「多文化コミュニケーション能力」の育成
 - ・外国人当事者の企画運営への参画

- 4 **運営体制**

「教室実習型研修」推進プロジェクト

 - ・メンバー 矢部まゆみ〔リーダー〕
(横浜国立大学留学生センター非常勤講師/YOKE 日本語学習コーディネーター業務アドバイザー)
 - 嶋田和子 (一般社団法人アクラス日本語教育研究所)
 - 中山利恵 (日本語教師・中国出身)
 - ファム ミーリン (元在ホーチミン日本語学校講師・ベトナム出身)
 - 山田敦子、杉山淳子、野俣恭子(YOKE 日本語学習コーディネーター) (敬称略)

・「教室実習型研修」推進プロジェクト会議の実施 (全 4 回)
平成 24 年 5 月、9 月、12 月、平成 25 年 3 月

- 5 **会場** 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

- 6 **講師**

主任講師：矢部まゆみ 特別講師：嶋田和子
講師アシスタント：中山利恵・ファム ミーリン (敬称略)

- 7 **内容及び期間**

	実施期間	内容	参加人数
第 1 期 企画・試行	平成 24 年 5 月 30 日 ～平成 24 年 7 月 2 日 (全 10 回)	「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」プログラムの企画・試行	講師 1 名 講師アシスタント 1 名 学習者 5 名
第 2 期 企画・試行	平成 24 年 10 月 15 日 ～平成 24 年 11 月 26 日 (全 4 回)	「日本語コミュニケーションワークショップ」プログラムの企画・試行	講師 1 名 講師アシスタント 2 名 学習者 17 名～19 名 日本語母語話者 4 名～14 名
第 3 期 教室実習 型研修の 実施	平成 25 年 1 月 7 日～ 3 月 27 日 (全 21 回)	「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」の実施	講師 2 名 講師アシスタント 2 名
	2 月 18 日, 25 日 3 月 4 日, 11 日, 18 日	「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修の実施	学習者 6 名 体験研修受講者 10 名

**平成 24 年度教室実習型研修
「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」基本方針**

<目的>

横浜市における「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動の充実を図る
また横浜市における公的日本語教室の在り方を検討する。

<基本方針>

- 実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動
→学習者の自立・自己実現・社会参加を目指す
 - 日本人と外国人双方の「多文化共生コミュニケーション能力」※(日本語教育学会 2008) の育成
 - 外国人当事者の企画・運営への参加

- ・ 学習者のニーズや状況把握のためのプロセスを工夫し、その人の実生活の場面や生活課題と結びつけて学習を効果的に進められるように教室活動を設計する。日本語学習の中で必要な生活情報も得ていけるように配慮する。
- ・ 外国人住民が、自分自身の<声>を発することができ、その声が傾聴され応答がされ、社会に参加・参画していけるようになることを目指す。<声>を発することの土台づくりを初級段階から配慮していく。
- ・ 「できるようになること (Can-do)」が具体的に見える形でシラバスを作成。行動目標の達成の中に、文法・語彙等の学習項目を織り込む。同時に、文型・文法の扱いは、認知的な習得のしやすさ、整理のしやすさを考慮し、効果的に学習が進められるように考慮する。
- ・ 学習者自身が自分の学習の状況（達成度）を認識し、達成感をもち、さらに次の学習につなげていけるように、各々の「ポートフォリオ」作成をプログラムに組み込む。
- ・ 日本人住民が対等な市民として外国人住民と対話・協働をしていく視点や能力を身につけることを促すことも、日本語教室のカリキュラム／プログラムの中で、日本語学習の活動と連動させる（交流者・対話者として一般市民が参加し、協働活動をしたり対話を深めたりしていけるような活動を講師が設計する）
- ・ 外国人当事者が企画・指導のスタッフに加わっての推進体制の中で、在住外国人の視点や声を重視し、外国人メンバーと日本人ローカルメンバーの協働によるプログラム開発を進める。
- ・ 外国人として日本語学習経験がある日本語非母語話者の人材と日本語母語話者がチームティーチングで日本語指導にあたることにより、「共生言語」としての「日本語」は「日本人が外国人に一方的に教える」ものではなく、「日本人と外国人が共に創りあげていくもの」であることも示す。
- ・ 長期的に外国人住民自身が日本語の指導者・支援者として活躍・貢献できるようになることにつなげることを目指す。

<研修としての目標>

- 「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援の理念を、「カリキュラム」および「教室活動」として具体的に実現し、それを地域で活動している支援者が観察・体験する機会を提供する。
- それぞれの支援者が自分が携わっている現場で、どのように応用できるかを検討し、支援活動の充実に結び付けられるようにする。

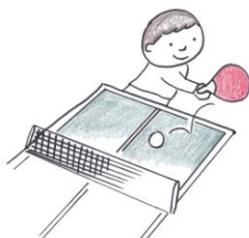
※日本語教育学会(2008)『平成 19 年度文化庁日本語教育研究委嘱 外国人に対する実践的日本語教育の研究開発』（「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業）報告書』第 1 章第 3 節
http://www.nkg.or.jp/book/080424seikatsusha_hokoku.pdf 参照

1 期

入門レベルの学習者対象のプログラムを作成し、
「横浜で暮らす人のための初期日本語教室(全 10 回)」で
試行[H24. 5/30～7/2]

教室の概要

- 実施時間 週 2 回 10 時半～12 時 (全 10 回)
- 教室形態 グループレッスン
- 学習者について
 - ・ 5 名
 - ・ 出身国・地域：アメリカ、ウクライナ、タイ、台湾
 - ・ 属性：日本人配偶者 4 名、家族滞在 1 名



10回の試行教室プログラム内容

	テーマ	行動目標	行動・体験中心の活動	YOKE教材例集	文化庁カリキュラム案	『できる日本語』参照箇所	『大地』参照箇所	『みんなの日本語』参照箇所	文法等
第1回	どうぞよろしく(1)	簡単に自分のこと(名前、出身地、住んでいるところ、趣味、職業など)を話したり聞いたりすることができる ・ひらがな・カタカナの表記に馴染む	・ガイダンス ・名れづくり ・自己紹介(名前、居住地、出身地、趣味、家族、仕事など) ・ひらがな・カタカナ、数字	[A-1] [A-2]	自己紹介	1-1私の名前・国・仕事、1-3私の趣味	1課(2課)	1課	・私は[名前]です。 ・[国]人です。 ・出身は[国・町]です ・NのN
第2回	どうぞよろしく(2)		・前回は振り返りながら、自己紹介に関係することば・表現の確認・整理 ・参加者同士のQ&A	[A-1] [A-2]	自己紹介	1-1私の名前・国・仕事、1-3私の趣味	1課(2課)	1課	・[仕事]ですか? はい、[仕事]です/いいえ、[仕事]じゃありません ・何ですか ・NとN
	身の回りのもの	・身の回りの物を指し示して、何であるか、どのようなものか、だれの所有物であるか述べたり確認したりすることができる ・単語レベルで名詞の語彙を広げ、かな表記にも慣れる	・身の回りのもの(ペン、本、机、さいふ…など)をさし示しながら名称を確認するやりとり、ゲーム ・「これ/それ/あれ」の使い方の体験・練習・整理			(3-3レストラン…忘れ物の持ち主を尋ねる)	2課	2課	・身の回りの物の名称 ・これ/それ/あれ、この/その/あの
第3回	教室の中、教室の周り	・施設等の位置を確認できる	・地図をみんなで一緒に見ながら、YOKE周辺の施設等の位置確認(「みなとみらい駅はどこですか?」「ここです」) ・YOKEの中を歩き回りながら、フロアマップの間違い探し				3課	3課	・～はどこですか ・あそこ・ここ・そこ
第4回	買い物	・自分の買いたいものがどこにあるか聞くことができる。 ・自分が買いたいものの値段を聞くことができる	・デパートのイラストを見ながら、どこに何があるかについてやりとり。P.36のイラスト(洋服売り場)の絵を見ながら買い物の会話。			2-1どこですか 2-2いくらですか	3課	3課	・何階ですか 階数の言い方 ・～はどこですか ・あちら・こちら・そちら ・いくらですか ・それをください
第5回	レストラン	・レストランで注文することができる。また、忘れ物の持ち主が誰か聞くことができる。	・レストランのイラストを見ながら会話、ロールプレイ、ディクテーション、聴解タスク			2-3レストラン	2課	3課	・何のN ・[言語]で ・どこのN、誰のN ・Nを(～つ)ください
第6回	時間	・時間を尋ねたり知らせたりすることができる	・「今、何時ですか」「バンコクは、今何時ですかーバンコクは今10:15です」 ・「TimeにActionます」「TimeからTimeまで」を使った会話の体験・練習・整理			3-1何時までですか	5課	4課	・今、何時ですか 時間の言い方 ・[時間]から[時間]までです
	電話できいてみよう	・NTT104番の番号案内を利用できる ・公共施設に開館時間や休館日などを問い合わせることができる ・電話を使った問い合わせができるようになる	・横浜のさまざまな施設の営業時間と休みの日を携帯電話で実際に問い合わせる * 学習者からのリクエストにより、タクシーの呼び方のデモンストレーションも行った。他に、レストランの予約、子供が病気になる時相談センターに電話して対処法を聞く方法なども希望あり			3-1何時までですか	5課	4課	・何曜日ですか 曜日の言い方
	わたしの一日	自分の一日の行動について述べたり相手の行動について聞いたりすることができる	・一日の行動について話す ・週末の予定について話す			3-3どんな毎日?	6課	4課・5課・6課	・～をVます(習慣) ・Vません ・[場所]で

	テーマ	行動目標	行動・体験中心の活動	YOKE 教材 例集	文化庁 カリキュ ラム案	『できる日本 語』参照箇 所	『大地』 参照箇 所	『みんなの 日本語』参 照箇所	文法等
第7回	週末	・週末にしたことについて述べたり聞いたりすることができる	・週末にしたことについて話す			5-1週末	5課 6課	4課・5 課・6課	・Vました ・Vませんでした
	よく行く場所	・自分がよく行く場所について話したり聞いたりする ・その場所の特徴についても、簡単な形容詞を使って述べる	・自分がよく行く場所について話す。	【A-5】			6課 7課	5課 ・(8課)	・～へ 行きます ・[交通手段]で ・いつも、よく、ときどき (頻度の表現) ・(形容詞)
	写真を見て	・写真を見ながら、写っているものの説明をしたり、特徴や印象などを話す。	・よく行く場所の写真や、家族の写真、お気に入りの写真を見せ合いながら話す	【A-4】			7課	8課	・～はAです ・イAくないです ナAじゃありません
第8回	★病院へ行きます	・多言語医療問診票の存在を知り、これを活用すればとりあえず病院へ行って受付ができることを知り、ひとりで病院に行けるようになる ・多言語医療問診票を辞書がわりに使用して、症状の言い方や意味をさぐる方法を知る	多言語医療問診票の紹介、病気・けがに関する簡単な語彙・表現	【B-6】	医療機 関で治 療を受 ける				
	★薬	・処方箋を見分け、薬局に持っていけるようになる。 ・薬のラベルを見る際にどこに注目したらよいか見分けられるようになる ・かぜの対処法について、それぞれの国での習慣、自分の習慣などを話すことができる	処方箋の見分け方、薬局での手続き、薬のラベルの読み方、薬局の利用の仕方		薬を利用する				
第9回	ピザの注文	提案したり、誘ったりする。また提案や誘いに対して適切な受け答えをする。 電話でピザの注文ができる	・1期最終日のランチにピザを注文して食べることを提案し、電話で予約注文をするかどうか相談する お昼のランチにピザをとることに決めたら、電話で注文する。 ・「Vませんか」+「Vましょう」の体験・整理・練習	【B-2】		6-1一緒に行きませんか	6課	6課	Vませんか
	わたしの国・まち	自分の国や町がどんなところか話したり質問したりできる	自分の国がどんなところか、形容詞を使って話す。クラスメートの話を聞いて、質問する。			4-2.どんなところ？	7課		・～はAです ・イAくないです ナAじゃありません
第10回	わたしの国・まち	自分の国や町について文にまとめることができる。他の人が自分の町や国について書いた文を読んで理解できる	自分の国や町について作文を書いてきて、それぞれに読みあう			4-2.どんなところ？	7課		・～はAです ・イAくないです ナAじゃありません
	予定	教室の予定や来学期の予定について話したり聞いたりすることができる	・YOKE教室のスケジュール:今学期が来週終了、秋学期、冬学期の予定について、チランのスケジュール表をみながら話す。 ・夏の予定について話す。			3-2私のスケジュール	5課	5課	・Vます(予定)
	ふりかえり	これまでの学習をふりかえり、各自のポートフォリオを整理する。	これまでの学習をふりかえり、各自のポートフォリオを整理する。		ポート フォリ オ	各課の行 動目標リス ト			

◆ポートフォリオ作文リスト1◆

YOKE

さくぶんリスト *あなたの さくぶんを ファイルしましょう

なまえ: _____

		いつ かきましたか	ファイルの ページ	コメント
【テーマ1】 どうぞよろしく				
1-a	<ワークシート>どうぞよろしく	が 月	に 日	
1-b	<さくぶん> じこしょうかい	が 月	に 日	
【テーマ2】 かいもの・しょくじ				
2-a	<さくぶん>わたしの すきな みせ	が 月	に 日	
2-b	<さくぶん>わたしの すきな たべもの	が 月	に 日	
2-c	<さくぶん>〇〇のつくりかた	が 月	に 日	
【テーマ3】 でんわ				
【テーマ4】 ^{なに}何をしますか・^{なに}何をしましたか				
4-a	<さくぶん>しゅうまつ、何をしましたか	が 月	に 日	
【テーマ5】 わたしの^{くに}国・まち				
5-a	<さくぶん>わたしのくに・まち (どんなところ? ゆうめいなものは?)	が 月	に 日	
【テーマ6】 びょういん・くすり				
6-a	<さくぶん>かぜのとき (なにをしますか)	が 月	に 日	
そのほか (すきなテーマで)				
		が 月	に 日	

■学習のふりかえりシート Reflection on my learning■

なまえ: _____

もくひょう objectives		わたし	ともだち/ サポーター	あたらしい ことば (新しく覚えたことば)	あたらしい ぶん (新しく覚えた文)
【テーマ1】 どうぞよろしく					
1-1.	自分の名前・国・仕事を言ったり、相手に聞いたりすることができる。 You can tell others your name, country, and job, and can ask others about theirs. 会介绍自己的, 或询问对方姓名、国籍、工作。 자신의 이름, 국적, 직업을 말하거나 상대방에게 물을 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
1-2.	年齢を言うことができる。誕生日を言ったり聞いたりすることができる。 You can say your age. You can give your birthday and ask others about theirs. 会说自己的年龄、生日。会询问对方生日。 나이를 말할 수 있다. 생일을 묻고 말할 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
1-3.	趣味を言ったり聞いたりすることができる。 You can state your hobbies/interests and ask others about theirs. 会说自己的, 或询问对方的兴趣。 취미를 묻고 말할 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
【テーマ2】 かいもの・しよくじ					
2-1.	自分の買いたい物がどこにあるか聞くことができる。 You can ask the location of things you want to buy. 会问自己想买的东西在哪里。 자기가 사고 싶은 물건이 어디 있는지 물을 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
2-2.	自分が買いたい物の値段を聞くことができる。 You can ask the price of things you want to buy. 会问自己想买的东西的价钱。 자기가 사고 싶은 물건의 가격을 물을 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
2-3.	レストランで注文することができる。忘れ物の持ち主が誰か聞くことができる。 You can order food at a restaurant. You can ask who owns belongings left behind. 会在餐馆里点餐。会问东西的失主是谁。 레스토랑에서 주문할 수 있다. 또한, 분실물 주인이 누구인지 물을 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		

もくひょう objectives	わたし	ともだち/ サポーター	あたらしい ことば (新しく覚えたことば)	あたらしい ぶん (新しく覚えた文)
【テーマ3】 でんわ				
3-1. 104の番号案内で、電話番号を問い合わせることができる。 (104に でんわします。 でんわばんごうを ききます。)	◎ ○ △	◎ ○ △		
3-2. 公共施設に開館時間や休館日などを問い合わせることができる。 You can ask public facilities about their opening times, closed days, etc. 会向一些公共设施询问开馆时间、闭馆日。 공공시설에 개관 시간이나 휴관일 등을 문의할 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
3-3. 電話でレストランの予約ができる。 (レストランに でんわします。 よやくreservation を します)	◎ ○ △	◎ ○ △		
3-4. 電話で予約のキャンセルができる。 (でんわで よやくreseravation を キャンセルcancell します。)	◎ ○ △	◎ ○ △		
3-5. 電話でピザを注文することができる。 (でんわで ピザを ちゅうもん します。)	◎ ○ △	◎ ○ △		

もくひょう objectives		わたし	ともだち/ サポーター	あたらしい ことば (新しく覚えたことば)	あたらしい ぶん (新しく覚えた文)
【テーマ4】 ^{なに} 何をしますか・ ^{なに} 何をしましたか					
4-1.	日常生活について話したり質問したりすることができる。 You can talk and ask about things pertaining to daily life. 会谈论日常生活。 일상생활에 대해서 말하거나 질문할 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
【テーマ5】 ^{くに} わたしの国・まち					
5-1.	自分の国や町がどんなところか話したり質問したりすることができる。 You can describe your country/hometown to others, and can ask others about theirs. 会谈论自己或询问别人的国家、城市的特点。 자신의 나라나 고장이 어떤 곳인지 말하거나 상대방에게 질문할 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
【テーマ6】 びょういん・くすり					
6-1.	病院で簡単に症状を話したり、医師の指示を聞いたりすることができる。 You can simply describe you symptoms and ask the doctor for advice at the hospital. 在医院里会简单叙述症状，听懂医生的指示。 병원에서 간단히 증상을 말하거나 의사의 지시를 듣고 이해할 수 있다.	◎ ○ △	◎ ○ △		
6-2.	薬のラベルの中で、効能や用法に関して書かれている箇所を見つけ、必要な情報を読み取ることができる。 (くすりのラベルをよみます。たいせつなことばを みつけます。)				

^{かんそう}
感想 Comments

2 期

放課後プログラムとして、日本語コミュニケーション
ワークショップ（全4回）を試行 [H24.10/15～11/26]

ワークショップ概要

■めあて

- ・生活に密着した体験を重視した活動の対話の中で、学習者が日本語運用能力を身に付けられるようにする。
- ・日本語学習者と日本語母語話者が双方向に学び合い、多文化コミュニケーションの向上を図る場を作る。

■プログラム内容

- ・「おにぎり交流会」
- ・「健康・病気・けが」
- ・「よこはま発見」
- ・「ミニ・インターナショナル・フードまつり&ゲーム大会」

■実施時間

「YOKE ニューカマーのための日本語教室」終了後の午後
12:10 または 12:30～14:00

■参加者

- ・「YOKE ニューカマーのための日本語教室」学習者の希望者、その家族
- ・日本語支援者
- ・一般日本語母語話者



「日本語コミュニケーションワークショップ」プログラム内容

YOKE

	第1回「おにぎり交流会」	第2回「健康・病気・けが」	第3回「よこはま発見」	第4回「ミニ・インターナショナル フードまつり&ゲーム大会」
■実施日	2012年10月15日(月) 12:10-14:00(110分)	2012年10月29日(月) 12:30-14:00(90分)	2012年11月7日(水) 12:30-14:00(90分)	2012年11月26日(月) 12:10-14:00(110分)
■めあて	生活に密着した情報のやり取り、話し合い、行動、体験を重視した活動を通じて日本語を使った対話の中で、学習者が日本語運用力を身につけられるようにする。日本語学習者と日本語母語話者が双方向に学び合い、多文化コミュニケーション能力の向上を図る場を作る。			
■各回のめあて及び特徴	<p>●アイスブレイキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにぎり作りという活動を一緒に楽しむ中で、人と知り合い、話し合うきっかけを得る <p>●文化体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食文化に親しみ、自分の国で「おにぎり」と似ているものについて話すことにより自分の食文化についても表現する <p>●関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「共通点さがし」の活動を通して、教室に参加する仲間を知り、関係をつくるきっかけとする 	<p>●生活課題の解決、自律(自立)に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語医療費診療票を使って、一人でもなんとか病院にかかる方法があることを知る ・病気の症状等の伝え方を知る ・医療システムの違い、医療に関する習慣等の文化の違いを知った上で自分の行動を選択できるようになる基盤をつくる 	<p>●自己表現/他者理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の出身地について述べたり、相手の出身地について聴いて理解できるようになる <p>●コミュニティ参加への意識形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜で好きな場所」について話し合うことにより、生活圏の情報交換、コミュニティのつながりをつくるきっかけとする ・第4回のワークショップを学習者自身で企画・実施する意識を高める 	<p>●日本語学習者自身による企画・実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画のためのボランティア・スタッフを募り、準備ミーティングを実施し、第4回の内容について、アイデアを出し合い、決定するというプロセスに日本語を使用しながら参加する。 ・料理の提供・紹介、歌の披露、歌詞カードの準備、ゲームの準備、司会進行等、参加者が何らかの役割を持って、当日のワークショップに参加する中で、日本語を使用し、コミュニケーションの実践をおこなう。
■参加者(人)	25	33	25	37
外国人住民(人)	YOKE 教室学習者 16 ・ 家族 1	YOKE 教室学習者 17 ・ 一般 2	YOKE 教室学習者 10 ・ 一般 1	YOKE 教室学習者 18 ・ 家族 1 ・ 一般 3
出身国・地域(順不同)	中国・アメリカ・イギリス・ベトナム・タイ・オーストラリア・ベネズエラ・ルーマニア・マレーシア・インドネシア・エチオピア	中国・アメリカ・イギリス・ベトナム・オーストラリア・ベネズエラ・ルーマニア・マレーシア・インドネシア・エチオピア・イタリア・インド・台湾	中国・アメリカ・イギリス・ベトナム・タイ・オーストラリア・イタリア・スペイン	中国・アメリカ・イギリス・ベトナム・タイ・オーストラリア・ベネズエラ・ルーマニア・インドネシア・エチオピア・イタリア・スペイン・韓国
日本語母語話者(人)	・一般 3 (横浜市職員 2) ・日本語支援者 1	・一般 7 ・日本語支援者 2	・一般 8 (横浜市職員 1) ・日本語支援者 2	・一般 9 (横浜市職員 1) ・日本語支援者 5
*オブザーバー(人)	4	5	4	1

にほんご

だい かい

こうりゅうかい

◆日本語コミュニケーションワークショップ第1回「おにぎり」交流会◆

活動のめあて

- ・おにぎり作りという活動を一緒に楽しむ中で、人と知り合い、話し合うきっかけを作る。
- ・日本の食文化に親しむと同時に自分の食文化についても表現する。
- ・「共通点さがし」の活動を通して、教室に参加する仲間を知り、関係を作るきっかけとする。

当日プログラム

＜準備＞

じゅんび
jun bi
(preparation)

なふだ なまえ か
名札に 名前を 書きます
Nafuda ni namae o ka ki ma su
(name-plate) (name) (write)

て あら
手を 洗います
Te o ara i ma su
(hands) (wash)

12:10～ おにぎりの 作り方 デモンストレーション
Oni giri no tsukuri kata de mo nn su to ree sho nn
(rice ball) (how to make) (demonstration)

おにぎりを 作ります
Oni giri o tsukurimasu
(make)

「わたしたちの おにぎり」 紹介
Wa ta shi ta chi no oni giri shoukai
(our) (introduction/explanation)

おにぎりを 食べます + おにぎり 豆知識
Oni giri o ta be ma su Oni giri mame chishiki
(eat) (trivia)

13:10～ コミュニケーション ゲーム「共通点は いくつ？」
Ko myu ni ke e sho nn ge e mu kyoutsuutenn wa i ku tsu
(communication) (game) (commonalities) (how many)

13:40～ 今後の ワークショップの 予定
Konngo no waa ku sho ppu no yotei
(future) (workshop) (schedule/pl)

13:50～ アンケートを 書きます
An ke e to o ka ki ma su.
(questionnaire) (fill out)

- ◎5人程度のグループを作る
- ◎おにぎり作りに必要な物はグループごとにセットしておく



言葉：ごはん、のり、しお、うめぼし
さんかく、しかく、まる等

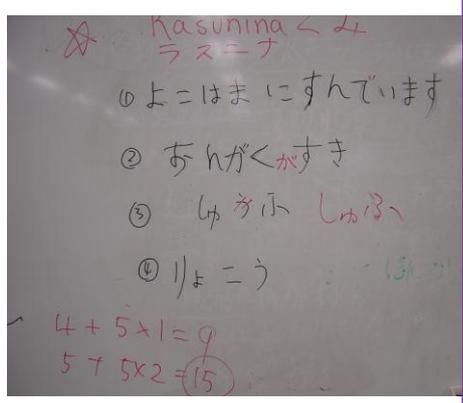


- ◎作ったおにぎり説明をする。
- ・「それは誰のおにぎりですか」「これはマリアさんのおにぎりです」「これはマリアさんが作ったおにぎりです」
- ・「うめぼしのおにぎりです」「中にしゃけが入っています」「きれいです」「おいしそうです」

- ◎おにぎりにまつわる話題を提供
- ・日本でおにぎりはどんな時に持っていくか。
- ・自分の国におにぎりのような食べ物があるかなど。

- ◎ワークシート「私たちの共通点」を使って同じグループで共通点を探す。(どのグループが一番多く共通点を書けたかを競うと楽しい。)

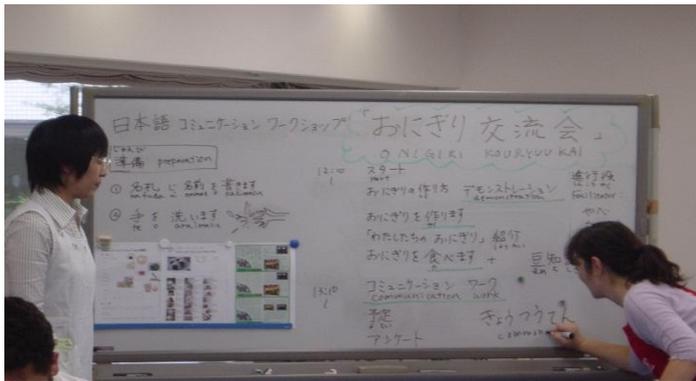
表現 「ヤンさんは料理が好きです」「ミカさんも料理が好きです」→共通点
「ヤンさんの家族は5人です」「ミカさんの家族も5人です」→共通点



さっそくおにぎりを作って家族と外出した学習者も！

** 活動の様子 **

ワークショップの内容を書いておきました。



中国出身の中山さんが、中国でハイキングなどに持って行く日本のおにぎりのような食べ物の話（焼餅・万頭）の話をしてくれました。日本ではどんな時におにぎりを食べるかも話しました。



「私たちの共通点」

グループで一緒になった人と共通点を探します。「何が好きですか」「家はどこですか」などをグループの人に質問して話が弾みました。

A-1 ワークシート④私たちの共通点

タスク: (1) グループのメンバーのプロフィールを聞いて、書きましょう
(2) メンバーの共通点をさがして、リストアップしましょう。

月 日 ()

**わたし きょうつてん
私たちの共通点**

Things we have in common 我們的共同點 我們的共同點
우리들의 공통점 Nuestros puntos en común es puntos en común
สิ่งที่มีเหมือนกัน(พร้อมกัน รวมนกัน) ของพวกเรา

②住んでいるところ: Place you live 住的地方 住處 사는 곳
Lugar de residencia local que mora ที่อยู่อาศัย

③出身地: Hometown 出生地 出生地 출신지 Lugar de nacimiento
local de nacimiento สถานที่เกิด

④趣味: Hobby 爱好 興趣 취미 Afición passatempo งานอดิเรก

★(例) よくテニスをします

★

★

★

プロフィール

なまえ
①名前:

す
②住んでいるところ:

しゅーしんち
③出身地:

しゅー
④趣味:

プロフィール

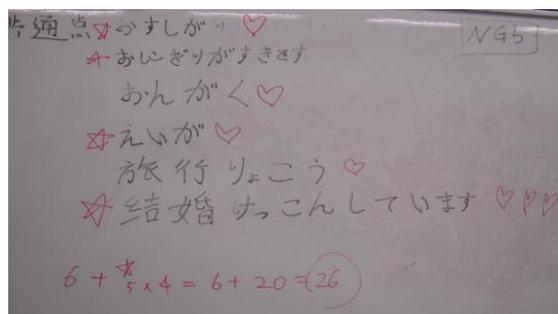
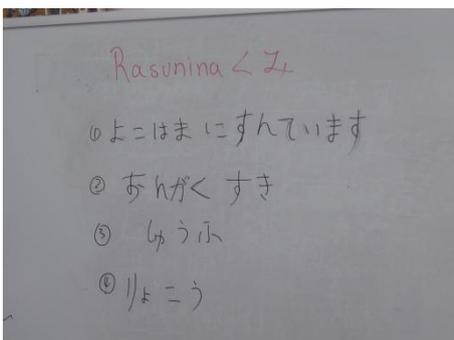
なまえ
①名前:

す
②住んでいるところ:

しゅーしんち
③出身地:

『YOKE 日本語教室教材例集』P20

ホワイトボードに書いて、どこのグループが一番多く共通点を書けたかゲーム感覚で楽しみました。



にほんご だい かい けんこう びょうき
◆日本語コミュニケーションワークショップ第2回「健康・病気・けが」◆

活動のめあて

- ・多言語医療問診票を使って、一人でもなんとか病院にかかる方法があることを知る。
- ・病気の症状等の伝え方を知る。
- ・医療システムの違い、医療に関する習慣等の文化の違いを知った上で、自分の行動を選択できるようにする基盤を作る。

当日プログラム

12:30～

あいさつ・説明
 Aisatsu setsumuei
 (introduction) (explanation)



ウォームアップ: ♪ 日本語 エアロビクス♪
 wo o mu a ppu ni ho n go e a ro bi ku su
 (warm up) (nihongo) (aerobics)

ゲーム: 身体のことば & 病気のことば
 Ge e mu kara da no kotoba & byouki no kotoba
 (game) (body parts) (words) (illness) (words)

「多言語医療問診票」を使ってみましょう
 tagengo-iryuu-monshinhyou o tsukatte mimashou
 (multilingual medical questionnaire) (let's try to use)

ビデオ: 「病院で」
 Bi de o byou inn de
 (video) (hospital) (at)



みんなで スキットを 作りましょう。 ロールプレイを しましょう
 Mi nn na de su kit to o tsukuri mashou rou ru pu re i o shi na i ma shou
 (everybody together) (skit) (let's make) (role playing) (let's do)

13:50～

今後の ワークショップの 予定
 Korngo no waa ku sho ppu no yotei
 (future) (workshop) (schedule/plan)

13:55～

アンケートを 書きます
 A nn ke e to o ka ki ma su
 (questionnaire) (fill out)



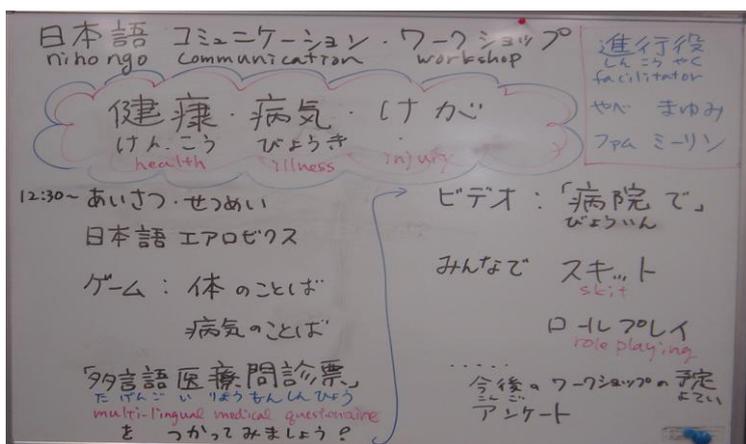
◎歌いながらエアロビクスをしました。

言葉 頭、肩、ひざ、足、目、耳、鼻、口
 左、右、左手、右手、おなか、おしり等

◎身体のことばと病気のことばのカードを使っている取りをしました。



ホワイトボードに書かれたワークショップの内容



一般の日本語母語話者も学習者と一緒にロールプレイをしました。

**** 活動の様子 ****

かるた取りゲームの前にベトナム出身のミーリンさんが身体のことば、病気のことばを絵カードを使って説明。



『YOKE 日本語教室教材例集』別冊[『ことばのリスト集』 8. 体の症状リスト (訳) より

びょうき しょうじょう 病気の症状のことば (リスト)		English	中文 (简体字)	中文 (繁体字)	한국 조선어	Español	Português	ภาษาไทย	語
頭が痛い	あたまがいたい	Headache	头疼	頭痛	머리가 아프다	(Tener) Dolor de cabeza	estar com dor de cabeça	ปวดหัว	
おなかが痛い	おなかがいたい	Stomachache (could mean "I need to go to the toilet.")	肚子疼	肚子痛	배가 아프다	(Tener) Dolor de vientre/estómago	estar com dor de barriga	ปวดท้อง	
胃が痛い	いがいたい	Stomachache (could mean serious pain or pain due to mental stress.)	胃疼	胃痛	위가 아프다	(Tener) Dolor de estómago	estar com dor de estómago	ปวดท้อง	
歯が痛い	はがいたい	Toothache	牙疼	牙痛	이가 아프다	(Tener) Dolor de muelas/dientes	estar com dor de dente	ปวดฟัน	
のどが痛い	のどがいたい	Sore throat	嗓子疼	喉痛	목이 아프다	(Tener) Dolor en la garganta	estar com dor de garganta	เจ็บคอ	
痒い	かゆい	Feel itchy	痒	癢	가렵다	Me pica ~~~~~	estar com coceira	คัน	
体がだるい	からだのだるい	Feel sluggish/weary	浑身没劲	倦怠感	몸이 나른하다	Sentirse un poco flojo/a (languidez)	estar com o corpo cansado	อ่อนเพลีย/ตัว	
食欲がない	しょくよくがない	Have no appetite	没有食欲	食欲不振	식욕이 없다	Falta de apetito	estar sem appetite	ไม่หิว/ไม่อย	
熱がある	ねつがある	Have a fever	发烧	發燒	열이 있다	Tener temperatura/febre	estar com febre	มีไข้	
発疹がある (ブツブツがある)	ほっしんがある	Have a rash	出疹	出疹子	발진이 있다	Tener erupciones en la piel	estar com erupção cutânea	มีผื่น/คัน	

◆日本語コミュニケーションワークショップ第3回「よこはま発見」◆

- 活動のめあて
- ・自分の出身地について述べたり、相手の出身地について聴いて理解できるようになる。
 - ・「横浜で好きな場所」について話し合うことにより、生活圏の情報交換、コミュニティのつながりをつくるきっかけとする。
 - ・第4回のワークショップを学習者自身で企画・実施する意識を高める。

当日プログラム

12:30～ あいさつ・説明
(introduction) (explanation)

グループワーク: 写真を 見せて 話しましょう!
(group work) (photos) (let's show and tell)

自己紹介
(self introduction)

わたしの国・まち
(my) (country) (town)

横浜で好きな場所
(in Yokohama) (favorite) (place)



◎自分の好きな場所の写真や携帯の写真を見せながら話しました。ワークシートにグループの人が話したことも書き込みました。

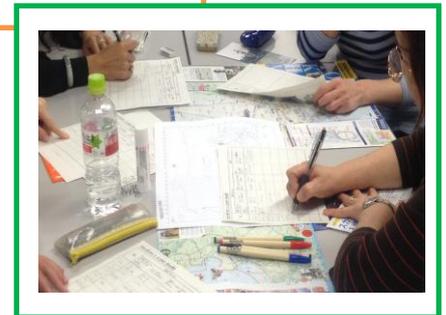
ミニ・ポスターを 作ります
(mini) (poster) (make)

わたしの国・まち、横浜で好きな場所
(my) (country) (town), (in Yokohama) (favorite) (place)

13:20～ ロールプレイ: 「まちかど インタビュー」
(role playing) (street) (interview)

13:45～ 第4回 11月26日(月)の 計画
(planning)

あなたの アイディアを ください!
(your) (ideas) (welcome)



13:55～ アンケートを 書きます
(questionnaire) (fill out)

◎次のワークショップの内容は学習者と決めました。「どんなことがしたいですか」との問いかけに対し、「歌が歌いたい」「ゲームがしたい」「料理を持ってきたらどうか」などのアイデアが出ました。企画ボランティアスタッフを学習者から募ったところ多くの人が手を挙げてくれ、後日打ち合わせをすることになりました。

◆まちかど インタビュー Street Interview◆ サンプル会話 sample dialogue

記者: こんにちは、横浜テレビです。すみません、ご出身は どちらですか。

Aさん: フィリピンです。

記者: フィリピンの どちらですか。

Aさん: フィリピンの セブです。セブは フィリピンの 南 です。

記者: セブで 有名な ものは 何ですか。

Aさん: そうですね、きれいな 海ですね。

記者: セブで おいしい ものは 何ですか。

Aさん: マンゴーです。フィリピンには いろいろな トロピカルフルーツが あります。みんな とても おいしいですよ。

記者: いいですねえ。あ、お名前は?

Aさん: Aです。

記者: Aさんは、横浜に 住んでいますか。

Aさん: はい。

記者: 横浜で、好きな 場所は どこですか。

Aさん: そうですね…、日本大通りが 好きです。

記者: どうして 日本大通りが 好きですか。

Aさん: 秋に、いちじうの木が きれいです。わたしは よく スケッチを します。写真もとります。ときどき、ストリート・コンサートが あります。楽しいです。

記者: そうですか。ありがとう ございました。

よこはま せいかつ たの 横浜の 生活を 楽しんでくださいね。

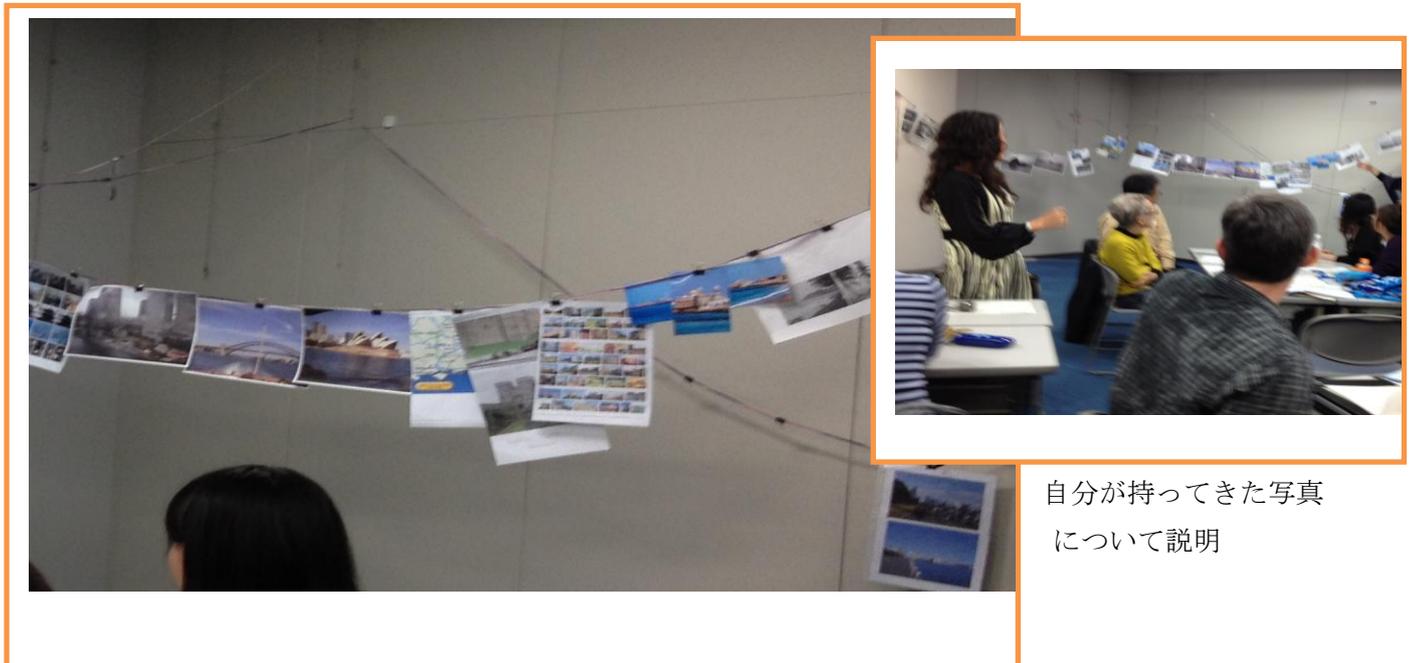
** 活動の様子 **

グループワークで使ったワークシート

なまえ 名前	しゅっしんち (くに) 出身地 (国/まち)			よこはま 横浜		
	しゅっしんち (くに) 出身地 (国/まち) は どちらですか (お国は どちらですか)	どこに ですか (どこに ありますか)	ゆうめい 有名 な もの なん 何 ですか	おいしいものは なん 何 ですか	よこはま 横浜 で す 好きな 場所は どこですか	どうして その場所が す 好きですか
やべ まゆみ	にほん 日本 ／東京・三鷹	とうきょうにし 東京の 西 しんじゆ 新宿の 近く	びじゆつかん ジブリ美術館	「いせや」の やきとり 焼き鳥	① 山下公園 ② 金沢 海の公園	① ひろいです ② バーベキューができます 「しおひがり」ができます

作成：矢部まゆみ(2012)

学習者が持ってきたお気に入りの場所の写真を壁に吊るしました。



自分が持ってきた写真
について説明



一般の日本語母語話者も自分の好きな場所の話をしました。最初は学習者とのコミュニケーションの取り方に戸惑った様子でしたが、だんだんと慣れてお互いの国について話したりしました。文化の違いを知って新たな発見も！

にほんご
◆日本語コミュニケーションワークショップ

だい かい
第4回「ミニ・インターナショナル・フードまつり & ゲーム大会」◆
たいかい

活動のめあて

- ・企画のためのボランティア・スタッフを募り、準備ミーティングを実施し、第4回の内容について、アイデアを出し合い、決定するというプロセスに日本語を使用しながら参加する。
- ・料理の提供・紹介、歌の披露、歌詞カードの準備、ゲームの準備、司会進行等、参加者が何らかの役割を持って、当日のワークショップに参加する中で、日本語を使用し、コミュニケーションの実践をおこなう。

事前企画ミーティング

学習者から成る企画ボランティアスタッフで何をするか話し合いました。



学習者が作成したチラシ



自分の国の料理を持ってこよう！

ジェスチャーゲームをしよう。

ジェスチャーゲームのカードは私が書きます！

活動の様子

ゲームの司会も学習者です。



「上をむいて歩こう」歌詞カードも学習者が作りみんなで歌いました。



色々な国の料理が並びました。

Ue o muite arukou うえをむいてある
 Namida ga kobore nai you ni なみだ が こぼれない
 Omoidasu haru no hi おもいだす はるの ひ
 Hitoribotchi no yoru ひとりぼっち の よる

Ue o muite arukou うえをむいてある
 Nijinda hoshi o kazoete にじんだ ほしをか

3 期

1 期・2 期の試行をもとに、初級前半レベルの学習者対象に「横浜で暮らす人のための初期日本語教室(全 21 回)」を実施 [H25. 1/7～3/27]

教室の概要

- 実施時間 週 2 回 10 時半～12 時 (全 21 回)
- 教室形態 グループレッスン
- 学習者について
 - ・6 名
 - ・出身国・地域：中国、エチオピア、イタリア、ルーマニア、ベネズエラ
 - ・属性：日本人配偶者 4 名、家族滞在 2 名

「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修の実施(全 5 回 2/18～3/18)

体験研修の概要

- 内容と実施日
 - ・事前研修 2/18 (14 : 00～16 : 00)
 - ・日本語教室の観察・体験・振り返り
2/25 3/4 3/11 (10 : 30～14 : 00)
 - ・事後研修(総括) 3/18 (14 : 00～16 : 00)
- 受講者 日本語支援者 10 名



「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」(全21回) プログラム内容

目的		「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援の理念を「カリキュラム」および「教室活動」に具体的に反映させる。学習者の自立・自己表現・社会参加を目指し、実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動を行う。				
テーマ	活動の目標	活動内容 (DN=「できる日本語」、ST=スモールピック)	YOKE教材 例集	文法等	主要テーマとは別に(あるいは関連して)学習者のその時の生活課題等に対応した学習、漢字学習等	
第1回	オリエンテーション	・担当講師、グループの仲間と顔合わせをし、親しむ ・Ⅲ期のプログラムの概要(およその内容、授業の進め方等)のイメージ得る	●オリエンテーション(講師紹介、スケジュール等配布) ●OPI(Oral Proficiency Interview)を応用した個別インタビュー、ニーズ・レディネス調査 ●【自己紹介／好きなこと】「どうぞよろしくシート」を記入してやりとりする ●年末年始の休みの間の経験について話す ●自己紹介と冬休みの経験について講師が作成した作文を読み合わせ、それぞれに自分の作文を書いてくることを宿題とした	【A-1③】「どうぞよろしくシート」 【A-1】「職業リスト」「趣味リスト」 【B-2①】「欠席の連絡」	(復習)	
第2回	自己紹介+冬休みの経験	・自分のこと(名前・出身地・住んでいるところ・趣味・職業など)、および冬休み中の経験について話したり聞いたりしたあと、それについて読んだり書いたりできる。また、読んだり書いたりしたことをもとに、さらに話し合うことができる	●宿題で書いてきた作文を確認する。9日に回収したものを、次回16日にフィードバックし、お互いに読みあい、ブックレットをつくることを相談する		・形容詞の過去形(大地12課相当・未習)、Vたいです、Nがほしいです(大地13課相当・未習)について適宜フォロー	
	友達の家で	周りの状況を簡単に友達に伝えることができる。また、何かを頼んだり提案したりしながら一緒に行動することができる	●DN7課ST1【道がわかりません】 ●DN7課ST2【パーティーの準備】 ●DN7課ST3【みんなで楽しいパーティー】		・～は～にあります/います ・～に～が あります/います ・Vて形 ・Vてください ・Vています	
第3回	自己紹介+冬休みの経験(作文)[続き]	自分の目標、今後やりたいことなどについて述べるができる	●作文の中から「日本で、ビジネスがしたいです」「旅行がしたいです」など、希望を述べた箇所を取り上げ、ほかの学習者と共有。「Vたいです」を使って、それぞれに自分の目標や希望を述べる		・Vたいです	・ポートフォリオ用のファイルを配付し、それぞれに自分の書いた作文等をファイルしてためていくことを伝える。(講師用の控えのファイルも学習者ごとに準備)
第4回	大切な人	簡単に自分の家族や友達について友達や周りの人に紹介することができる	テーマ・単元への導入 ●DN8課 話してみよう&聞いてみよう: ●DN8課ST1【家族・友達】 ●DN8課ST2【こんな人】 ・家族や友達など「大切な人」の写真を持ってきて話す ●DN8課ST3【プレゼント】 ●DN8できる(話読聞書+もう一度聞こう) ・「大切な人」について、講師自身の大切な人を紹介(写真を見せ、話し、準備してきた文章を配付)それを例に、作文を書いてくることを宿題に。		・～に住んでいます ・【人】と(～人)で住んでいます ・～が(～人・匹) ・Vています(職業) ・Nが上手です・Nが下手です ・～は～がAです ・イAくて、～ ・ナA・Nで、～ ・あげます ・もらいます ・くれます	・買い物の漢字「～引、豚、牛など」 ・『漢字たまご』2課 ・「私の国・町」について講師作成の作文例を読み合わせながら、自分たちの国や町について話し合い、宿題で作文を書いてくる ・漢字『漢字たまご』『漢字のはじまり』p.2～3、3課(曜日等)p.19～20ざっと触れる
第5回		友達にあげるプレゼントについて相談したり、自分がもらったプレゼントについて話したりすることができる				・駅のアナウンスを聞き取ってくる宿題とその確認(DK8課ST3から「もうすぐ」「まもなく」についての話が出たことから ・漢字:今日の漢字「森」(「森さん」より)→「林」→「休」→「体」、『漢字たまご』3課I Vやってみよう(ごみ収集日)
第6回		テーマ・単元のまとめ				
第7回						

	テーマ	活動の目標	活動内容 (DN=『できる日本語』、ST=スモールトピック)	YOKE教材 例集	文法等	主要テーマとは別に(あるいは関連して) 学習者のその時の生活課題等に対応し た学習、漢字学習等
	好きなこと	サークルや交流イベントに参加したとき、自分の好みや趣味を話したり、相手に質問したりすることができる。	テーマ・単元への導入	●DN9課トピラ(話してみよう+聞いてみよう)		
第8回		趣味について話したり質問したりすることができる	●DN9課ST1【いろいろな趣味】	【A-1】「趣味リスト」	・Vることです ・いつも・よく・ときどき・あまり・全然 ・でも ・[期間]に[～回・冊・本] 助数詞	・前日の漢字(『漢字たまご』でのゴミ収集日のタスク)からの発展として、横浜市の「ごみと資源の分け方・出し方」(英語・中国語・スペイン語)を配付。自分の居住地区でのゴミ集積所のポスターを実際に見て、分別種ごとの収集日を「ごみと資源の・・・」の表の空欄に漢字で記入してくることを宿題とした。
第9回		情報をもとに、できることやできないことを話することができる	●DN9課ST2【できること・できないこと】	【B-3】「チラシを見て大切な情報を書こう」 *【B-5情報シート②】「ごみと資源の分け方・出し方(リーフレット)&収集曜日のステッカー」	・Nができます ・Vることができます(能力)	・横浜市域で開催のさまざまなイベント等のチラシをみながら、参加したいイベントについて話し合う。(パン教室など)イベントのチラシを見て、申し込みの電話をかけた。授業時間内に電話が繋がらなかったため、それぞれに自宅から電話をかけて申し込みをやり遂げてくることを宿題とした。
第10回		休みの日にしたことについて話したり質問したりすることができる	●DN9課ST3【楽しい週末】 ・八景島シーパラダイスの行き方 ・週末の出来事についての話 ・エチオピア料理「ドロ」のレシピを、話し合いながら作成		・Vて、～ ・どうやって	・欠席者が多く学習者が1名のみだったので、週末の出来事について、ゆっくり話しをきき、そこから、結婚して日本に来ることになったエピソードなどにも話が発展。 ・YOKEから、facebookで各国の料理のレシピを紹介したいという要望があり、「楽しい週末」のテーマにも関連して、料理が趣味という学習者にエチオピア料理「ドロ」のレシピを、口頭で話してもらいながら、講師と一緒に書いて作成。 ・妊娠中の学習者を、地域のボランティア団体主催の「多文化ママと赤ちゃんの会」に紹介し、講師も一緒に参加。会場までのアクセスをガイドすることにより、その後、同じ場所で行われるパン教室にもひとりで行けるよう橋渡しを兼ねる
第11回		テーマ・単元のまとめ	●DN9課できる(話読聞書+もう一度聞こう) ・地域イベントへの参加の予定について話したり、実際に参加した体験について話す。			・妊娠中の学習者が、区役所主催の母親学級にも区派遣の市民通訳と共に参加できるように、教室コーディネーターがYOKE情報相談コーナースタッフと連携して手配

	テーマ	活動の目標	活動内容 (DN=『できる日本語』、ST=スモールトピック)	YOKE教材 例集	文法等	主要テーマとは別に(あるいは関連して) 学習者のその時の生活課題等に対応し た学習、漢字学習等	
第12回	でかけて みよう(バス ツアー)	大勢の人と行動するために、 状況に応じて 簡単な質問を することができる。 また、指示 を理解して行 動することができる。	テーマ・単元への導入	●DN10課 話してみよう&聞いてみよう			
第13回			集合場所への行き方がわからなくなったとき、友達に電話で聞いて行くことができる。また出発までの簡単なやり取りをすることができる	●DN10課ST1【集合】		・もう～ましたか(完了)、まだVていません ・Vてきます ・Nが見えます・Nが聞こえます ・[場所]を	
第14回			公共の場での注意を聞き取ったり許可を求めたりすることができる	●DN10課ST2【いろいろな注意】		・Vてもいいですか ・Vないでください ・Nは(取立て)	・妊娠中の学習者より、緊急時の病院への連絡の仕方、タクシーの乗り方について教えてほしいという相談があり、必要な会話例をシュミレーションして作成して伝えると共に、『日本で安心して赤ちゃんを』(Nプロジェクト著、港南国際交流ラウンジHP掲載)の抜粋を提供し、一部会話練習を行う
第15回			周りの状況に応じて行動を提案することができる。また、施設にどんなサービスがあるかを質問することができる	●DN10課ST3【動物園で】		・～が(Vています) ・Nができます Vることができます(状況) ・イAくなります ナ・NIになります	
第16回			テーマ・単元のまとめ	●DN10課できる! ・横浜近辺の動物園について、写真やパンフレットを見ながら対話 ・「好きなお店」についてインタビューシートを使って互いに尋ねあう。日本人の見学者(研修受講者)にインタビューをして、結果を報告する ・講師が自分の「好きなお店」について書いた作文を読み、それぞれに自分たちの「好きなお店」についての作文を書く	【A-5②】「お出かけ計画」 【A-5①】「よく行く場所を書こう」		
第17回	私の生活	自分の生活や身近な話題について友達や周りの人と話すことができる	テーマ・単元への導入	●DN11課 話してみよう&聞いてみよう	【A-1④】「私たちの共通点」	・研修受講者(見学者)との「共通点さがし」のアクティビティ ・パン教室参加体験の報告と、次回の電話申し込みをどのように行ったかの報告	
第18回			今の生活について話したり質問したりすることができる	●DN11課ST1【今の生活】		・～は～が、～は(対比) ・Vています(習慣) ・VたりVたりします ・～とき、Vます ・どうしますか	・パン教室参加の報告 ・お花見のアナウンス(JU)
第19回							・お花見のアナウンス(TI)と参加者確認
第20回			今までの自分のことについて簡単に話したり相手に質問したりすることができる。	●DN11課ST2【今の私・前の私】		・～とき、Vました	・お花見の準備(連絡先の確認等) ・修了スピーチの準備
第21回							・ポートフォリオ整理 ・お花見の最終連絡・確認 ・修了スピーチ(TIさん)

◆ポートフォリオ作文リスト2◆

さくぶんリスト *あなたの さくぶんを ファイルしましょう

なまえ: _____

		いつ かきましたか	ページ	コメント
【テーマ1】 ^{じこ しょうかい} 自己紹介				
1-b.	<さくぶん> ^{じこしょうかい} 自己紹介	が 月 日		
【テーマ2】 ^{ふゆやす けいけん} 冬休みの経験(冬休みに何をしましたか)				
2-a	<さくぶん> ^{ふゆやす けいけん} 冬休みの経験	が 月 日		
【テーマ3】 ^{ともだち いえ} 友達の家で				
3-a	<さくぶん> ^{くに} わたしの国・まち	が 月 日		
		が 月 日		
【テーマ4】 ^{たいせつ ひと} 大切な人				
4-a.	<さくぶん> ^{たいせつひと} 大切な人	が 月 日		
4-b	^{えき} 駅のアナウンス(きいて、かく)	が 月 日		
【テーマ5】 ^す 好きなこと				
5-a.	<さくぶん> できることリスト	が 月 日		
4-b	ごみのカレンダー (あなたのうちの ^{ちか} 近くの ^み ポスターを見ましょう。 どの ^{なんようび} ごみを ^だ 何曜日に出しますか? ^{かんじ} 漢字で ^か 書きましょう)	が 月 日		
4-c	<さくぶん> ^す 好きな ^{ばしょ} 場所は ^い どこですか? どうやって ^い 行きますか?	が 月 日		
		が 月 日		
いろいろ				
		が 月 日		
		が 月 日		

作文1

JUさんの作文

たいせつなひと
大切な人

それは私の主人です。

主人は[]の関係の仕事をしています。

毎日一緒にごはんを作り、食べます。

また、散歩に行ったり、買い物に行ったり、

水泳に行ったりします

彼はやさしくて、力が強いです。

彼は私と話をするために中国語を勉強しています。

家では私たちは普通中国語と日本語を少し話します。

ずっと一緒に居たいです。

作文2

TIさんの作文①

さくみん
【作文】

自己紹介

わたしは [] です。
うちは [] ちよです。
しゅんは イチオビP の Pツ"ス Pベ"です
いゆは ハキソク"と リは"うと すい"えい"です
し"とは イチオビP 2" project correspondent
Abudhebi 2" ひは" 2"です。 いは"ん" 2" しゅん
が"とは 2"人"です
と"ら"を"よろしく" 2"な"が" い"します

冬休みの経験 (冬休みに何をしましたか)

わたしの 小休"が"みは 12月 30日から 1月6日
まで"でした。 わたしは ま"き"た"は" い"きました。...
ま"きました。 か"い"た"も" しました。 た"べ"ました。...
た"ん"を" 2" みました。 パ"リ"と" 2" いました

TIさんの作文②

エチオピア料理「ドロ ワット」の つくりかた

<ざいりょう> 8 人ぶん

- ・ たまねぎ 2 玉 3口
- ・ トマト 1 個 4口
- ・ ガーリック(にんにく) 1 かけ
- ・ パプリカ 2 玉
- ・ グラウンド パプリカ 2 玉
- ・ バター 4 グラム
- ・ たまご 8 個
- ・ とり肉 2 グラム



おいしいドロ★

<つくりかた>

1. フライパンにたまごをのけて、1人1個とたまごをまぜてゆでます。ちゆらび" 2" 1人1個のたまごです
2. トマトとパプリカをのけてちゆらび" 2" 1人1個のたまごです
3. とり肉をのけてゆで、1人1個のたまごをまぜ、たまごからたまごをゆでます
4. へ"のたまご" 2" たまご"をゆでますからをゆでます
5. 2"、1"、1"、たまご"とバターをのけてゆで、たまごをゆでます

★ 【日本語版】 『できる日本語 初級』 「できること」 一覧

1課	簡単に自分のこと（名前・国・趣味など）を話したり相手のことを聞いたりすることができる。	1	自分の名前、国、仕事を言ったり相手に聞いたりすることができる。
		2	年齢を言うことができる。誕生日を言ったり聞いたりすることができる。
		3	趣味を言ったり聞いたりすることができる。
2課	お店の人や友達と簡単なやりとりをして、買い物をしたり料理の注文をしたりすることができる。	4	自分が買いたい物がどこにあるか聞くことができる。
		5	自分が買いたい物の値段を聞くことができる。
		6	レストランで注文することができる。また、忘れ物の持ち主が誰か聞くことができる。
3課	これからの生活や周りの人との関係作りのために、予定を聞いたり身近なことを話したりすることができる。	7	公共施設に開館時間や休館日などを問い合わせることができる。
		8	学校の1年のスケジュールについて質問したり、自分の1年の予定を話したりすることができる。
		9	日常生活について話したり質問したりすることができる。
4課	簡単に自分の出身地について友達や周りの人に紹介することができる。	10	自分の国・町の位置や日本までの時間などを言ったり相手に質問したりすることができる。
		11	自分の国や町がどんなところか話したり相手に質問したりすることができる。
		12	自分の国・町の気候や料理について話したり相手に質問したりすることができる。
5課	休みの日のできごとや予定について友達や周りの人と簡単に話すことができる。	13	休みの日にしたことについて話したり質問したりすることができる。
		14	休みの日の感想を話したり質問したりすることができる。
		15	休みの日に何をするか話したり質問したりすることができる。
6課	友達を誘ったり、行きたいところやしたいことを一緒に相談したりして、約束することができる。	16	友達を誘うことができる。また、誘いを受けたり断ったりすることができる。
		17	友達の意向を聞いたり情報を比べたりしながら相談することができる。
		18	会う場所や時間などを約束することができる。
7課	周りの状況を簡単に友達に伝えることができる。また、何かを頼んだり提案したりしながら一緒に行動することができる。	19	迷子になったとき、行きたい場所がどこにあるか質問したり、自分がどこにいるか言ったりすることができる。
		20	パーティーの準備をしているとき、何か頼んだり指示したりすることができる。
		21	パーティーのとき、自分から手伝いを申し出たり食べ物などをすすめたりすることができる。
8課	簡単に自分の家族や友達について友達や周りの人に紹介することができる。	22	家族や友達の人数やどこに住んでいるかなどを話すことができる。
		23	家族や友達がどんな人か話すことができる。
		24	友達にあげるプレゼントについて相談したり、自分がもらったプレゼントについて話したりすることができる。

9課	サークルや交流イベントに参加したとき、自分の好みや趣味を話したり相手に質問したりすることができる。	25	趣味について話したり質問したりすることができる。
		26	情報をもとに、できることやできないことを話すことができる。
		27	休みの日にしたことについて話すことができる。また、自分が知っていることの手順を説明することができる。
10課	大勢の人と行動するために、状況に応じて簡単な質問をすることができる。また、指示を理解して行動することができる。	28	集合場所への行き方がわからなくなったとき、友達に電話で聞いて行くことができる。また、出発までの簡単なやり取りをすることができる。
		29	公共の場所で注意を聞き取ったり許可を求めたりすることができる。
		30	周りの状況に応じて行動を提案することができる。また、施設にどんなサービスがあるか質問することができる。
11課	自分の生活や身近な話題について友達や周りの人と話すことができる。	31	今の生活について話したり質問したりすることができる。
		32	今までの自分のことについて簡単に話したり相手に質問したりすることができる。
		33	友達と「友達言葉」を使って話すことができる。
12課	体調について友達や周りの人と簡単に話すことができる。また、病院で簡単なやり取りをすることができる。	34	体調が悪くなったとき、症状を簡単に話して早退を申し出たり欠席の理由を言ったりすることができる。
		35	体調がよくない友達にアドバイスをすることができる。
		36	病院で簡単に症状を話したり医者からの指示を聞いたりすることができる。
13課	生活を楽しく便利にするために、身近な役立つ情報やおすすめ情報をやりとりすることができる。	37	友達の経験から自分が知りたい情報を得たり、自分の経験を友達に話したりすることができる。
		38	おすすめの物、場所、人について話すことができる。
		39	自分が知りたい情報を得るために、質問することができる。
14課	異なる文化の中で楽しく生活するために、習慣・文化・ルールを知り、自分の意見を簡単に言うことができる。	40	使い方がわからない人に簡単に使い方を説明することができる。
		41	トラブルを未然に防ぐために、ルールやマナーなどを友達に言うことができる。
		42	身近なことについて、自分の意見を簡単に言ったり相手の意見を聞いたりすることができる。
15課	ニュースや身近な情報を友達や周りの人に簡単に伝えることができる。また、その情報をもとに一緒に行動することができる。	43	テレビや雑誌などの情報を友達に伝えて、誘ったりその情報の感想を話したりすることができる。
		44	雑誌などの情報をもとに、いろいろな条件を考えながら友達と行動することができる。
		45	出かけた先で、自分の周りの様子を簡単に話すことができる。



「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」

教室活動を観察し、体験する研修の受講者を募集します！



公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

横浜市国際交流協会(以下、YOKE)では、横浜市委託事業として、総合的な生活力身につけることを目指した「横浜で暮らす人のための初期日本語プログラム」の開発に取り組んでいます。このプログラムでは、生活場面とのつながりに配慮しながら、基礎的な日本語運用力の習得を日本語学習者に促すとともに、生活情報の提供や、人およびコミュニティとのつながり作りも内容に組み込むようにしています。

このプログラムを取り入れた教室活動を実際に観察・体験しながら、教室活動の背景にある考え方を学び、地域での活動にいかすことを目指す、学習支援者向けの体験研修を実施します。「多文化共生のまちづくり」の視点に立った日本語学習の活動や教室づくりに関心のある方向けの講座です。

1. 研修名 「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修

*全20回(2013年1~3月)の日本語教室活動のうち、全3回を研修として公開します。



- | | | | | |
|-------|-----|---------------|-------------|------------------|
| 2. 日時 | 第1回 | 2013年2月18日(月) | 14:00~16:00 | 事前研修 |
| | 第2回 | 2月25日(月) | 10:15~14:00 | 教室活動(観察・体験)・振り返り |
| | 第3回 | 3月4日(月) | 10:15~14:00 | 教室活動(観察・体験)・振り返り |
| | 第4回 | 3月11日(月) | 10:15~14:00 | 教室活動(観察・体験)・振り返り |
| | 第5回 | 3月18日(月) | 14:00~16:00 | 総括 |

3. 場所 YOKE 会議室

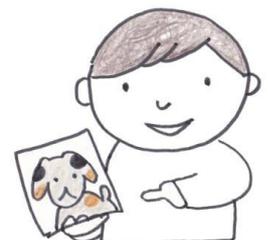
横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際交流協力センター5階
(みなとみらい線みなとみらい駅から徒歩5分 JR線・市営地下鉄桜木町駅から徒歩15分)

*会場地図裏面参照

4. 対象者 横浜市内で日本語学習(主に成人対象)に関わる活動をしている方で、以下の条件をすべて満たす方。

- (1) 2012年実施「日本語ボランティア研修会『多文化共生・社会参加の視点から地域日本語教室を考える』」に参加し、原則として3回以上出席の方
- (2) 日本語学習に関わる活動歴が、原則として3年以上の方
- (3) この教室実習型研修に、原則として全日程参加できる方

*全ての条件を満たさなくても受講に関心のある方は、お問合せください。



5. 定員 7名程度(応募者多数の場合には、選考になることがあります)

6. 講師 講師:矢部まゆみ氏(横浜国立大学非常勤講師・YOKE 日本語学習コーディネーター業務アドバイザー)
 特別講師:嶋田和子氏(一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事)
 講師アシスタント:ファム ミーリン氏(元日本語学校(在ホーチミン)講師・ベトナム出身)
 中山利恵氏(日本語講師・中国出身)

7. 内容 生活の場面に結びつけて日本語の習得を促し、学習者を支える教室活動を、講師が実践します。受講者は、その実践を観察したり、共に参加したりしながら、教室活動を体験します。また、講師と受講者で振り返りやディスカッション等を行い、理解と考察を深めます。
 *使用教材「YOKE 日本語教室教材例集」(YOKE)他

8. 参加費 無料

9. 申込方法 申込書(所定様式あり)をお送りください。

(1)Eメールにて(宛先 c-nihongo@yoke.or.jp)

*件名は「体験研修申込」とし、添付ファイルでお送りください。

*申込書様式のデータ(Excel ファイル)が必要な方は、Eメールで請求ください。

*FAX で受け付けることはできません。

(2)郵送にて(宛先は「12 申込み・問合せ先」参照)

10. 募集期間 2012年11月19日(月)~12月12日(水) 必着

11. 参加可否の通知

可否については12月20日(木)までに申込み者全員に、Eメールまたは電話でお知らせします。

12. 申込み・問合せ

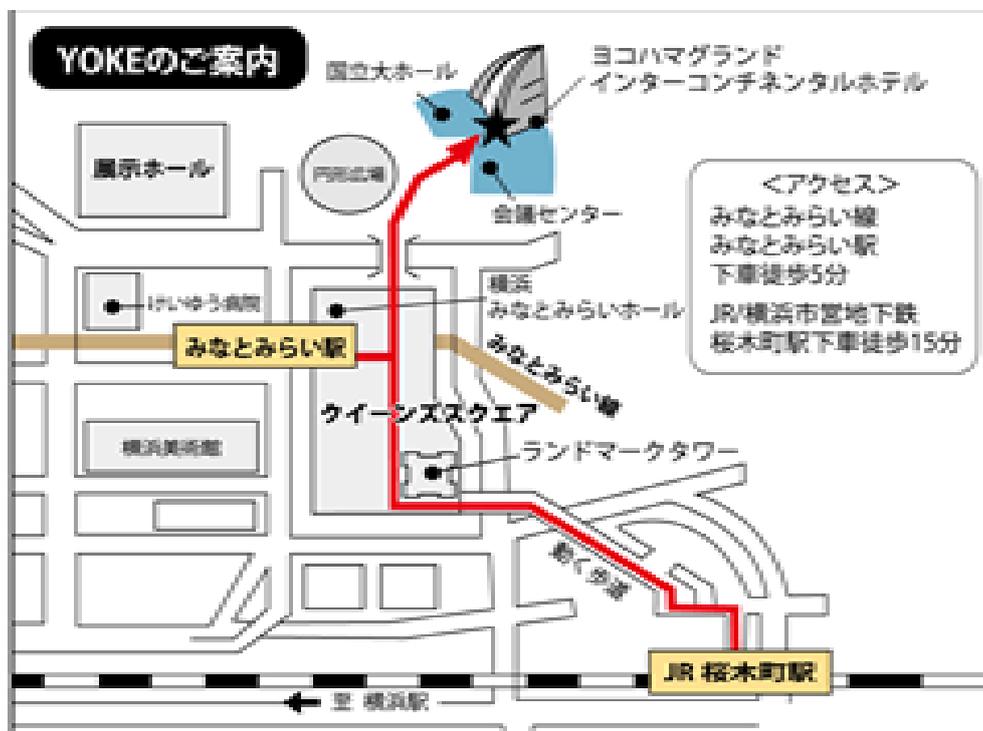
YOKE 多文化共生課 山田・野俣

〒222-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階

電話: 045-222-1173 Eメール: c-nihongo@yoke.or.jp

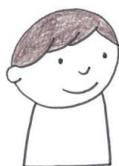
13. 個人情報について 申込み時に記載いただいた個人情報は、本研修のためのみ利用します。

14. 会場地図



** 体験研修の様子 **

横浜市における「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動の充実を図ることを目的に全5回の研修を行いました。



皆さんの教室活動のヒントにもつながる
研修の様子を写真つきでご紹介します。



【学習の場を外へつなげる】

「牛肉」など、学習者が日頃よく目にする生活の漢字をとりあげて、答えは「家族に聞いてきてね。」と、学習を教室の外につなげました。

【レベル差をどう活かすか】

帰国していた学習者が久しぶりに教室へ戻ってきて、自分の国の話をしてくれました。講師は、学習者同志のコミュニケーションをサポート。



【一般の参加者との場づくり】

学習者が、地域の方（今回は実習型研修受講者の方々）に横浜の好きなところについて、インタビューしました。シャイな学習者も勇気をだしてインタビューに挑戦し、「どうしてその場所が好きですか?」「私もその場所が好きです。」など話がひろがっていました。話題がひろがりやすいよう写真やパンフレットや地図なども活用しました。

参考:『YOKE 日本語教室教材例集』の「写真を見て話そう」(p.55)



【お互いを知る関係づくり】

学習者が中心となって、地域の方（今回は実習型研修受講者の方々）と『YOKE 教材例集』の「私たちの共通点」（p.20）を使って、共通点がしをしました。好きなことや誕生日などお互いのことを質問しあうなか、たくさん会話もでき、関係づくりのきっかけを学べる活動になりました。



お花見 OHANAMI

行く場所(どこへ)	野毛山動物園
行く日(いつ)	3月28日(木曜日)
乗り物(何で)	歩いて
集合場所(どこで)	桜木町駅で前改札口
集合時間(何時に)	10:30

みんな一緒に行きませんか。
お弁当と飲み物を買って、持って、いって楽しいです。
お花見ができます。かわいい動物の写真を撮りましょう。
楽しいですよ。

- 木曜日はお花見イベントがあります。
- お弁当と飲み物は自分で持参してください。
- お花見の時期も重なり、学習者からの提案で野毛山動物園にお出かけが決定しました。その後、実際にチラシを作って参加者を募集しました。

お花見に行く計画

行く場所(どこへ)	野毛山動物園
行く日(いつ)	3月28日(木曜日)
乗り物(何で)	歩いて
集合場所(どこで)	桜木町駅で前改札口
集合時間(何時に)	10:30

みんな一緒に行きませんか。
お弁当と飲み物を買って、持って、いって楽しいです。
お花見ができます。かわいい動物の写真を撮りましょう。
楽しいですよ。

【人と人をつなぐ活動へ】

『YOKE 日本語教室教材例集』の「お出かけ計画」（p.71）を使って、活動しました。お花見の時期も重なり、学習者からの提案で野毛山動物園にお出かけが決定しました。その後、実際にチラシを作って参加者を募集しました。

【講師アシスタントの活躍

～学習者のロールモデルとして～

講師とペアになって、講師アシスタントが活動を盛り上げました。また、ベトナム出身の講師アシスタントが日本で感じた「さみしかったこと」など自身の体験を語って、共感がうまれました。講師アシスタントというロールモデルを示すことは、学習者の意欲向上にもつながります。



◆インタビューシート「わたしの好きなところ」◆

学習者がインタビューの内容がイメージできるように、講師と講師アシスタントがインタビューシートに自分のことを記入しておきました。

好きなところ

なまえ 名前	す 好きなところ	そこに <small>なに</small> 何がありますか <small>なに</small> (何がいますか)	そこで <small>なに</small> 何ができますか
なかやま	あか 赤レンガ	<ul style="list-style-type: none"> ・すてきな レストラン ・おしゃれな(fashionable) お店 <small>みせ</small> 	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい料理を <small>りょうり</small> _____ ことができます。 ・ _____ ・春に「フラワーガーデン」があります。 ・きれいな花を <small>はな</small> _____ ことができます。
やべ	やましたこうえん 山下公園	<ul style="list-style-type: none"> しばふ、<small>き</small> 木、はな ふね、おみやげの店 <small>みせ</small> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクニックができます。 ・シーバスに _____ ことができます ・土曜日と日曜日に、大道芸を <small>どようび</small> <small>にちようび</small> <small>だいどうげい</small> _____。 ・10月にワールドフェスタがあります。 ・いろいろな国の料理を <small>くに</small> <small>りょうり</small> _____。
	②カップ ラーメ ン・ -	<ul style="list-style-type: none"> ヒストリーキューブ (History Cube)、 クリエイティブ シンキング ホックス(Creative Thinking Box) マイ カップヌードル ファクトリー(My 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなインスタント・ラーメン <small>み</small> を見ることができます。 ・オリジナルの「わたしのカップヌードル」を _____ ことができます <small>くに</small>

* いろいろな人 ひと に インタビューしましょう

なまえ 名前	す 好きなところ	そこに <small>なに</small> 何がありますか <small>なに</small> (何がいますか)	そこで <small>なに</small> 何ができますか

** 講師・学習者の作文例 **

前回、インタビューしあった経験をもとに、まず、講師が自分の好きなところを書いた作文を、みんなで一緒に読み、そして学習者も自分の好きなところをそれぞれ書きました。

「好きなところ」

や べ
矢部まゆみ

わたし やましたこうえん す やましたこうえん ゆうめい
私は山下公園が好きです。山下公園に しばふや ふんすいがあります。有名
なふねもあります。ふねの名前は「ひかわまる」です。ひかわまるは古いです。ひか
わまるの中にはいって、ふねのへやを見ることができます。シーバスの乗り場もあり
ます。ここからシーバスに乗って、みなとみらいへ行ることができます。レインボーブリ
ッジが見えます。

やましたこうえん びくにつく うえ
山下公園で ピクニックができます。しばふの上で おべんとうを たべることがで
きます。

どようび にちようび たいどうげい み まいとし
土曜日や日曜日には、大道芸を見ることができます。おもしろいです。毎年、
10がつ やましたこうえん わーるど ふえすたよこはま く
10月に、山下公園で「ワールド・フェスタ横浜」があります。いろいろな国のおどり
を見ることができます。いろいろな国の食べ物を食べることができます。わたしはイ
ンドやタイのカレーが大好きです。とてもおいしいですよ。

「好きなところ」

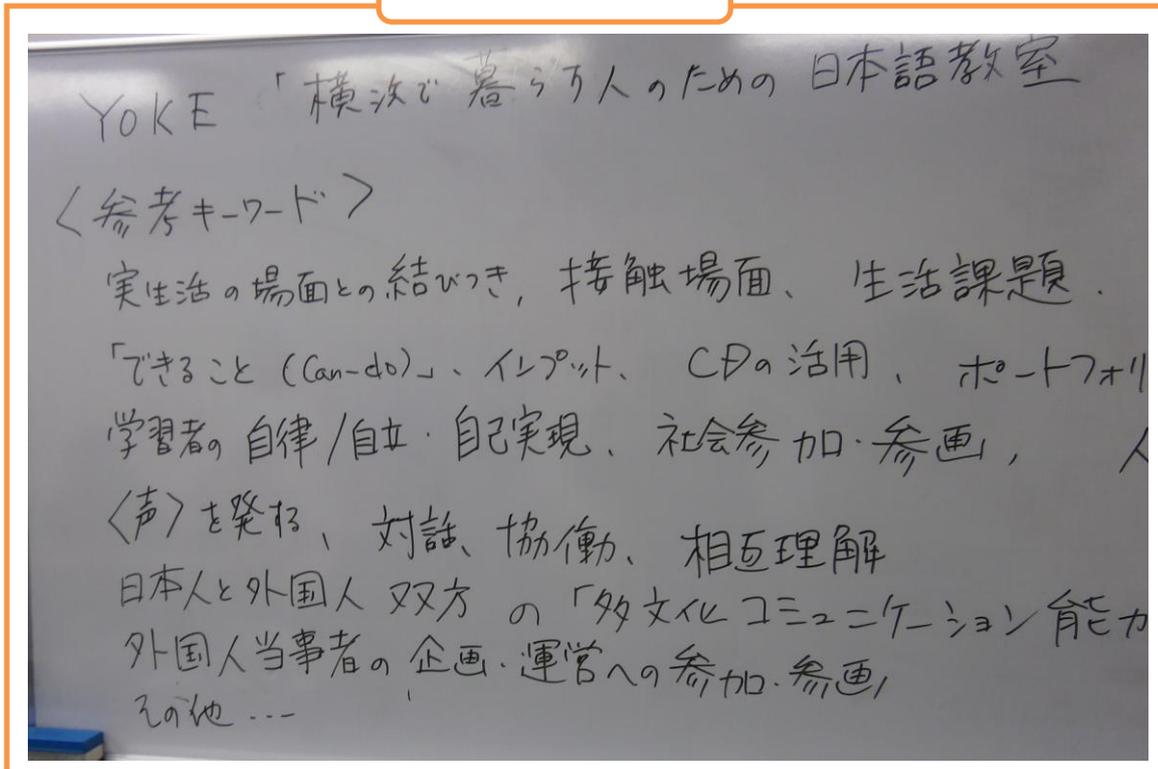
私は北鎌倉が好きです。北鎌倉は山と山の間あいだにあり、
木がたくさんあります。有名なお寺があります。
大きなお寺では、円覚寺と建長寺けんちんと浄智寺じょうちがあります。
また、家の近くには、明月院めいげついんがあります。小さな川かわが流れています。
散歩したり、山にのぼることができます。
高いところにのぼると、海や富士山やみなとみらいのランドマーク、
遠いところに東京のスカイツリーを見ることができます。
車が少なく、静かしずかで、鳥とりが鳴ないています。
土曜日や日曜日には、遠くから電車でたくさんの人ひとが来きます。
6月のあじさいや秋の紅葉もみぢなど、一年中、きれいきれいです。
近くにはお店が少なく、食べる物ものを買かうことができません。
でも、青い空と澄すんだ空気くわいがあるので、お腹はらが一杯いっぱいになります。
とてもいいところですよ。

◆体験研修 受講者の振り返り◆

研修会の最後は体験研修の振り返りを行いました。

受講者は体験した研修会を振り返り、これから自分の現場で活かそうとしていること、目指そうとしていることとお互いに話し合いました。

振り返りのキーワード



◆体験研修受講者振り返りシートからの抜粋

<日本語教室の目的・目標>

- 日本語教室の目的は、学習者が日本人と話が出来、社会参加が出来るようにする事であり、この授業では何が出来るようになるのか、そのために何を話題にし、どうすればいいのかを考える事だと言われ、とても感心しました。…今までは、自分が今日の授業では教案通りに進める事ができたとか、時間通りに済ませる事が出来たかなどが先で、学習者がどうだったかについての反省がとても少なかったと思います。今後は、この目標を中心に考えていけば、語彙、文法の導入、方法も分かってくるだろうとも思いました。当たり前なのでしょうが、私にとっては、この目標をはっきり持てたという事が、発想の転換にも繋がりが、今までの悩みの解決にもなりました。本当に大きな収穫でした。
- 外国人はもはや外の人ではなく内の人であると認識すべきでしょう。外国人が積極的に社会参加をすることにより、そこに対話が生まれ、相互理解のチャンスが生まれます。日本語教室は日本語を使えるようにするだけでなく、その社会参加の後押し役目も担っていると考えます。社会参加のための情報を提供したり、初めて会う日本人とも話せるように促したり、教室外の活動と一緒に参加したりすることによりスムーズに社会参加をし、相互理解のチャンスを作り出すことができるのでしょうか。研修においてそれをどう取り込んでどう実践できるか、具体的に見せていただきました。また、相互理解のための対話をするためには日本人側の努力も必要になります。私たちは今後、教室外の日本人の理解の輪を広げるべく活動していきたいと思いました。

- ・ ここで得たものをどうやって自分のグループに持ち帰ろうか、共有しようかということを考えています。今回のテーマにあるように外国の方を日本の社会へ送り出す助けをするのだという強い思いを皆で共有はしていなかったのです。私たちの活動はそういうことだったのかと、そんな理念のありようを教えてくださいたいと思います。
- ・ 「学習者が社会に一步を踏み出せる」ようにしたいと考えています。それには日本語だけでなく情報の提供も必要だと思います。外部をもっと巻き込みたいですし、また、それが大切だということを他のボランティアにもっと伝えたいと思います。

<実生活の場面や生活課題との結びつき>

- ・ 「できるようになること (Can-do) リスト」はコンパクトにまとめられているので、支援者が授業の到達目標を考える上でも、学習自身が何ができるようになったかを確認するときにもすごく使いやすいのではないかと思います。できるリストに〇が多くなっていくと学習者のモチベーションを高めることもできるのではないかと思います。
- ・ この体験研修のおかげで、学習者の「できる！」を信じられるようになった。今までは「今のレベルでは無理かも」と勝手に思い込んでいた。学習者は日本語の海の中にいるわけで、何かしらの日本語は耳に残っているはずである。CD を聞くことによって、「これ聞いたことがある！」「この意味知ってる！」「こういうふうに言いたかった！」というように記憶がよみがえり、その「生きた日本語」が歎びにつながり、そこから学習意欲が芽生えるのだと感じた。
- ・ 今までボランティア側が話題を提供し、それについて話しながら文法や語彙を学習するという形で進める事が多かったのですが、今回の研修の中で、教室での活動を実生活に結び付ける、つながるということの大切さを教えていただきました。学習者にも、自分の実生活を教室の中に持ち込んでもらうことで、学習者が教室で学んだ事が実生活で役立つ達成感を感じる事ができ、次の学習への意欲につながるのだと思います。…接触場面や生活課題を考えながらする授業の準備がとても楽しかったことも発見です。
- ・ 今まではテキストの進度とレベル分けに気を使い、学習者にとって無味乾燥であり楽しくなかったかと思えます。進学とか仕事に必要な人はがんばるでしょうが、地域で周囲の日本人たちと一緒に暮らすという観点では別な配慮が必要だと気付きました。
- ・ フリートークと言えども、今日は何を覚えた、何ができるようになったと念押ししてあげると、漫然と帰るよりも彼らの達成感、満足度が得られるのではないかと感じました。
- ・ ボランティア・学習者が、互いに協力し、作り上げる活動をもっと増やしたいと思います。最終的には、学習者が支援者になれるような支援を目指したいです。

<つながり作り>

- ・ 授業の中に日本人の方に入ってもらって対話をするというのは、すごく効果があるものだと改めて思いました。本当の意味でのコミュニケーションができる機会を提供するためにも、また支援者の日本語だけでなく、様々な方の日本語を聞く機会を提供するためにも、日本人の方に入ってもらえる機会を作りたいと思います。
- ・ 日本は多民族国家ではないので、「多文化共生」ってどうすればいいのかよくわからない、というのが実情だと思う。私達日本人が意識改革をしなければ何も始まらない。授業で、「一般の日本人を授業に巻き込む」手法を実際に拝見し、とても参考になった。学習者自身、「外部」の日本人と話して、自分の日本語が通じた時のうれしそうな顔！地域の日本語教室が、学習者と地域の日本人との異文化交流の発信地になればうれしい。ただ、実際問題としては、同じ日本語教室で日本語支援するメンバーたちの協力をいかに得るか、を考える必要もある。支援者の中には、クラス活動中に部外者を入れることを好まない人がいるからである。まずは実践してみて、その結果をメンバーに見せ、納得してもらおうのが一番…。

- ・ 教室以外の人をもっと「巻き込む」ことが本当に大切ですね。それから、学習者のご家族や友人への働きかけも教室活動で、できることが分かりました。
- ・ 授業の間3～5人のボランティアは後ろで控えているのです。この控えているボランティアを毎回一緒に授業に巻き込んだらどうだろうとふと思ったのです。貴重な資源は身近なところにありそうです。

<現場での他の支援者仲間との分かち合いについて>

- ・ 課題は、他のボランティアへの働きかけです。今一緒にクラスを担当しているもう一人のボランティアとは認識が共有できているので、今後は団体の他のボランティアにどのように伝えていくかが課題だと思っています。特に自分の所属団体では学習者とボランティアが1対1で学習していて、活動時間もそれぞれ異なるため、ボランティア同士のつながりを作る事、意識を共有することが難しいのが現状です。会を運営する側としての課題も常にそこにあり、「ボランティア同士の顔の見える環境づくり」が来年度の課題にもあがっています。まずはボランティア同士のつながりづくりから考えていきたいと思っています。
- ・ 日本語ボランティア40名が同じ思いを持てば、大きな力になるような気がしています。ボランティアの数が多いだけに機動力は弱いですが、一度方向性を決めればいつも粘り強い力を発揮できていると感じています。」
- ・ 今回得たものを分かち合い、意識を共有することが大切だと思います。毎月1回の運営ミーティングで伝え、話し合っていこうと思います。
- ・ 同志との勉強会など、お互いに意見交換ができるような環境作りも整えていきたい。
- ・ 研修会で学んだことを実践し、それを今後の教室運営を考える上での叩き台になればと思い、メンバーに授業を開放しました。

<諸機関との連携体制づくり>

- ・ 地域生活の必要知識は個々の日本語教室だけではできないし、外国人登録時の通り一遍の説明ではほとんど理解できないでしょうし、行政、ラウンジ、ボランティアが共同でフォローをする必要があると思います。ゴミや町内会組織以外に育児就学支援、安全安心生活（病院、火事、救急、警察、災害時など）を継続的にかつ日本語力の進捗に応じて指導していく仕組みが望まれます。

<複言語文化者（外国人当事者）との協働>

- ・ 今回、特に中山さんとミーリンさんの体験談は、とても参考になった。今学んでいる学習者たちも同じような気持ちを発信したい、でもまだ話せない、というジレンマに陥っているに違いない。それは、私自身が海外生活で味わった気持ちでもあり、中山さんとミーリンさんと自分がぴったり重なって、涙が出そうになった。地域の日本語教室では、初級の学習者が次々入って来るのに、上級の学習者がいつまでも残って出て行ってくれないから困る、という声を聞く。そういう話を聞いて支援者側に腹立たしさを感じるが、上級者を支援者スタッフとして受け入れることはできないか?!彼らをスタッフとして迎え入れることで、支援者も学習者の「声」に気付くはずだ。「日本語教室の支援者は日本語母語話者」だと思っていた自分が恥ずかしい。中山さん、ミーリンさんのような方たちの体験談を、地域の日本語支援者たちが聞ける機会がもっと増えることを願っている。
- ・ 自分が 実際に 経験、体感しないことは なかなか 分かりません。高齢者、障害者、子供、女性、外国人、部落差別 ハンディキャップや差別を受け、苦しんでいる方に対してへの想像力、やさしさ、支援するに当たってその環境に働きかけていくこと、相談や苦情に応ずることは、「人への支援に他ならない、そのために、その尺度となる自分のくせ、価値観、ものの見方を繰り返し、絶えず検証していく必要がある」と。それは、自らが高齢者であり、これから障害者となっていく自分のコトでもあると考えています。「多文化共生のまちづくりのための日本語学習支援」も、その一環です。自分の 置かれた環境、状況の中で できるだけ アウトプットして いたらと 願っています。 人との 関わりなしには生きていくことが できないと 考えているからです。 地域での 日本語教室ボランティアも そのひとつだと考えています。

◆体験研修を振り返って◆

中山利恵講師アシスタント

私自身は外国人ですが、支援者としてこの研修会に参加することで、多くのことを学び、考えさせられました。やはり「社会参加」型の勉強法は日本語を勉強する上でとても有効だと思います。

今回の研修で、教材として『できる日本語』を使って、具体的な場面シラバスが多く含まれていて、いろいろなワークショップも取入れていたため、学習者にとって教室活動に参加しながら日本語力が伸ばせ、学習したものが教室から出たらすぐ使えるので、学習意欲やモチベーションも上がり、教室活動の参加から、社会参加へと繋がっていくと思います。そのような点で、今回の研修会はとても大きな意味があったのではないのでしょうか。また、ボランティアの方がプロの先生の授業を見学することによって、より良い教室活動を習得する場にもなったのではと思います。

今後は、このような日本語の学習者と支援者の両方ともサポートする体制が横浜でもっと広がることを願っています。

ファム ミーリン講師アシスタント

私は、今度の「横浜で暮らす人のための初期日本語教室」体験研修の講師アシスタントとして参加させていただき、ありがたいと思っています。授業見学を通して、日本語の学習を深めてきました。そして、日本とベトナムでの勉強の仕方の違いが分かるようになりました。

ベトナムでは、ほとんどの日本語学校は長い時間『新日本語の基礎』や『みんなの日本語』というテキストを使って文法と読解を中心に教えています。一つのクラスの人数はだいたい30人です。日本人の教師と勉強できる学校は結構少ないので、発音、会話、聴解が苦手です。

今回の研修では、『できる日本語』を使って、テキストに出てくる単語も場面もとても自然で、習ったらすぐに使えるのが特徴だと思っています。それに、場面もはっきり限られて理解しやすいです。さすがプロの矢部先生の教え方で、1時間半の授業は内容量が多いですが、楽に見えています。また、体験研修の皆様も熱心的に授業をサポートして、そのおかげで学習者は自信を持って、日本語の力もぐんと伸びました。この状態だと、安心して日本の暮らしにはやくなれると思います。

初期日本語教室に通って、時間は短いですが、こんなに日本語ができるのは外国人にとって役に立つことだと思っています。どうもありがとうございました。

嶋田和子特別講師

受講者の皆さんがそれぞれ「問題意識」を持って参加し、忌憚なく意見を出し合い、メーリングリストを通じて「対話」をしていったことで、大きな成果を生むことができました。特に印象に残ったのは、皆さまが感じたこと・気づいたことをもとに、ご自分の現場で「新たな実践」にチャレンジしていらしたということです。研修を受け、「そうか、わかった！やってみよう！」と思っても、ついついそれで終わり、新たな一步が踏み出せないというケースが多々あります。また、「新たな実践」に際して、周りを巻き込むことを常に考えながら行動していらしたことは、注目に値します。なかなか組織が変わらない理由の一つとして、「個人の知見」を「組織の知見」に変えることができない、ということが挙げられます。今回の「一粒の麦」からたくさんの「実り」が生まれるよう、10人の「すばらしき仲間達」で協力し合って、活動を続けられることを願っています。

今回の研修は、「見本」や「答え」がある研修ではなく、矢部さんやYOKEの方々と「対話」を重ねながら、企画し、実践していきました。「一体何が生まれるのか。どういう化学反応が起こるのか」、やりながら考えるしかない「新しい形の研修」でした。それだけに、私自身にも、さまざまな気づきと学びがありました。先日申し上げた言葉を、改めてここに記します。他者に、そして、自分自身に誠実であるために、お互いに学び続けましょう！

「学ぶとは誠実さを胸に刻むこと、教えるとは希望を与えること」

矢部まゆみ主任講師

受講者の皆さんが自身の活動現場でもこの研修で体験したことを積極的に話し、共有しようとしてくださっていることに深く感銘を受けています。今回の体験研修では、具体的な実践を公開してみなさんと話し合う、ということを中心としていましたが、そのように授業を「開く」ことにより、お互いに「開こう」「話し合おう」という動きが広がって「拡大生産」されていく可能性を見ることができました。具体的な活動方法については唯一絶対の「正解」があるわけではなく、現場の状況、参加者の状況等にあわせて、探っていくものであり、現場にかかわる人同士がそれを「話し合っていけるようにする」ということがとても大切だと思っています。そしてそういった話し合いの際に拠り所となるのは、「何のための日本語教室なのか、何を目的・目標に活動をするのか」という理念でしょう。

今回「横浜で暮らす人のための日本語教室」では、「多文化共生のまちづくりのための日本語学習支援」として、「実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動により、学習者の自立・自己実現・社会参加を目指す」こと、「日本人と外国人双方の『多文化共生コミュニケーション能力』（日本語教育学会 2008）の育成」「外国人当事者の企画・運営への参加」を基本方針としてプログラムを作成し教室活動を展開しました。この研修で、活動を受講者の皆さんに見てもらい、皆さんとの対話を通して、理念を吟味し、共有していったことで、理念が新たな「魂」をもってきたように感じています。この研修を一緒に作り上げてくださったみなさんに心から感謝いたします。

平成 24 年度教室実習型研修(日本語教室)総括

教室実習型研修 プロジェクトリーダー 矢部まゆみ

平成 24 年度に横浜市から公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)に委託された「横浜市日本語学習コーディネート業務」の中で、「教室実習型研修」のプロジェクトは、中核的な位置を占めるものであった(*1)。本報告書の冒頭にも記述があるように、本プロジェクトでは、「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動の充実を図るとともに、公的な日本語教室の在り方を検討することを目的として、「教室実習型研修」を実施した。「教室実習型研修」とは、(1)学習者に対しては日本語教室(学習機会の提供)、(2)支援者に対しては研修(教室活動の観察・体験・考察の機会の提供)、という2つの機能を併せ持つもので、「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動とはどのようなものかについて理念を整理した上で、それを実現する具体的な日本語教室の「カリキュラム」と「教室活動」を作成・検討し、それを日本語教室で実施して学習者に提供すると同時に、地域の支援者に支援者研修の一環として公開し、教室活動を観察・体験しながら、それぞれの支援者が自分の携わっている現場に合わせてどのように応用できるかを検討し、支援活動の充実に結び付けられるようにすることを目指してきた。

「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援活動を具体化するために、本プロジェクトでは、次の3つの基本方針を掲げた。

- 【1】 実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動を通して、学習者の自立・自己実現、社会参加を目指す。**
- 【2】 日本人と外国人双方の『多文化共生コミュニケーション能力』(日本語教育学会 2008) (*2) の育成**
- 【3】 外国人当事者の企画・運営への参加**

ここで上記【1】【2】【3】の基本方針が、本プロジェクトにおいて具体的にどのように実現されたか、そこからどのようなことが見えてきたかについて、主要な点を挙げ総括する。

基本方針【1】 実生活の場面や生活課題と結びつけた学習活動を通して、学習者の自立・自己実現、社会参加を目指す：

第1期、2期でそれぞれに試行した要素を組み込みながら、3期のプログラムを発展させて展開したが、各期とも異なる枠組み設定の中で、学習者の状況に合わせてプログラムを作成してきた中で、複数の異なるプログラムを具体的な実践例として提示できる結果にもなった。第1期は初級の中でもゼロ・スタートの入門期を対象としたプログラム、第2期はマルチ・レベルを対象としたプログラム(別の時間枠でレベル別に文法等を含む学習を行った上で、自由選択のワークショップとして幅広いレベルの学習者が共に活動を行う形式)、第3期は初級を少し学んだレベルを対象としたプログラムとなっている。第1期、2期、3期共通して、実生活の場面や生活課題と結びつけてテーマ設定を行い、その場面において日本語で「できるようになること」を重視しながら、言語の構造(文法等)もわかりやすく習得していけるように配慮して教室活動の展開を試みた中で、文法を含め総合的な言語習得を促せる手ごたえを得た(*3)。ここで留意したいのは、「場面との結びつき」というのはただ単にある場面のもとで表面的に「用を足す」ことの練習で留まるものではないということである。実生活の場面や生活課題に結びついた活動を考えることを出発点に、その場面やテーマと関連した自分たちの経験を話し合ったり、さらに教室の外での実践活動に結びつけながら、人とのつながり作りを実現したり

してこそ、言語習得を学習者の「自立（自律）」「自己実現」「社会参加」につなげていける可能性があることが、今回改めて見えてきた。

例えば、第3期中盤で取り上げたテーマ「でかけてみよう」においては、目標（できるようになること）として「集合場所への行き方がわからなくなったとき、友達に電話で聞いて行くことができる」「公共の場での注意を聞き取ったり許可を求めたりすることができる」「周りの状況に応じて行動を提案することができる。また施設にどんなサービスがあるかを質問することができる」を、教科書『できる日本語初級』（*4）10課「バスツアー」を参照して設定した。同教科書のイラストやCDを使用して、「ST（スモルトピック）1：集合場所」「ST2：いろいろな注意（バスの中や美術館で注意事項等を確認する）」「ST3：動物園で」の各場面において使用される表現を学ぶようにし、その中に、文法項目も織り込まれており（「Vてもいいですか」「Vないでください」「Vることができます」等）、イラストを見ながらその場面で何といったらよいかを学習者に想像させ、CDを聴いて実際に使われる表現を耳からインプットし、さらに、同じ文型や表現を使った応用練習により定着をはかった。ただし、ここで上記の場面でやりとりをする練習にとどめるのではなく、『できる日本語』でも強調されているように、そこからさらにお互いの「好きなところ（場所）」について話し合い、作文を書いて読み合ったりする活動や、実際に自分たちで「出かける」計画を立て、実際にその準備をおこない、実行する活動に発展させることを重視した(*5)。「好きなところ」については、学習者同士で話し合ったあと、授業を見学していた研修受講者の方々にもインタビューして情報収集をするようにし、そこからさらに「今度みんなでどこかに出かけませんか」と持ちかけた。『YOKE 日本語教室教材例集』（*6）掲載のワークシート「お出かけ計画」を活用し、学習者同士の話し合いにより「お花見」が計画され、チラシを作成して他のグループの学習者も誘って、実際にお花見に出かける運びとなった。当日の点呼や要所要所でのアナウンスも学習者が行った。教室で学んだことばを、実際に使う場面も多く、さらに学習者同士や、日本人参加者（研修受講者）とのつながりも広がったり深まったりする様子を見ることができた。この経験をもとに、学習者が今後も「周囲の人を誘って出かけてみよう」という勇気と自信が持てるようになっていればと期待する。

基本方針【2】日本人と外国人双方の『多文化共生コミュニケーション能力』（日本語教育学会 2008）の育成：

第2期の「コミュニケーション・ワークショップ」において、YOKEの語学講座（英語、スペイン語）に通っている市民の方々（日本語教育の経験なし）等に声をかけ、参加者を募った。日本語学習者にとっては、一般の日本語母語話者市民の方々と体験行動中心の活動と一緒に取り組む中で、日本語を使い、コミュニケーションの充実感・達成感を感じたり、出会いを楽しんだりすることができた一方で、日本語母語話者市民参加者の方々からも「やさしい日本語で話せば通じるんだ！と感じることができた」「うまくコミュニケーションができなかった場合にはどのような工夫をすると伝わりやすくなるかなどを考える機会になった」「横浜には、こういう人たちが実際に暮らしているんだ！と知って興味がわいた」「いろいろな国の話が聴けて異文化交流が楽しかった」といった声をきくことができた。

第3期は、体験研修の受講者の方々に学習者からのインタビューにこたえてもらったり、対話の相手になってもらったりしながら、それぞれの自身の現場において、地域の多様な方々を巻き込んでこのような活動を実践するとしたらどのような可能性があるか、またどのような工夫が必要かなどを考えてもらった。「まずは、自分たちのグループの中の他のボランティアを巻き込んでインタビューや話し合いの活動を行う」「高校生のグループに参加してもらおう」など、さまざまなアイデアが出され、早速に実行に移されるケースが次々とでてきた。それぞれの現場での今後の展開が期待される。

基本方針【3】外国人当事者の企画・運営への参加：

「多文化共生のまちづくり」が、多様な背景をもった人たちが対話し協働して共にくらしやすいまち（地域）をつくっていくことを目指すものであるならば、日本語学習のプログラムの開発や実施も、在住外国人や多様な背景をもつ日本語学習経験者と日本語母語話者の対話と協働により、それぞれの視点や声を持ち寄りながら進めていくべきであろう。

本プロジェクトにおいて、日本語を母語とせず、外国語として学習した経験を持つ中山氏(中国出身)とファム氏(ベトナム出身)に、プロジェクトメンバーとしてプログラムの企画に携わっていただき、また授業活動にも講師アシスタントとして参加していただいたことは、特に次の点で意義が大きかった。

(1) 在住外国人・日本語非母語話者の立場から、日本での生活経験や日本語学習の経験について語ってもらい、その中から「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援のあり方への提言が得られた：

…中国出身で滞日歴 20 年になる中山氏からは、来日当初は孤独と不安の中で暮らしていた中で、日本語教室への参加が地域社会と接点をもつ場としても機能し、人とつながりができることによって安心して暮らしていくことができるようになり、地域活動や仕事など、実際に社会に「参加」していく中で日本語の習得も進んだという自らの経験から、日本語教室において「人とつながる」機能も併せ持ったプログラムの中でコミュニケーション力の育成がはかる意義が大きいという提言があった。ベトナム出身で滞日歴(4年)のファム氏は、ベトナムの日本語学校で学んだ後、日本に留学し、ベトナムに戻って日本語学校で日本語教師として教えていた経験もあり、学習者にとって場面と結び付けて「わかりやすい」提示をし、「できるようになった」と達成感を感じられるようにするために何を考慮するべきか、学習者の目線に立った意見を出してくれた。また、教室活動で取り上げるテーマや場面について、両氏が日本で経験したことのエピソードを提供してもらったのは授業づくりにおいて大変貴重なリソースとなった。

(2) 日本語学習者に対して将来のロールモデルに触れる機会を提供することができた：

…中山氏は、現在、小中学生の日本語指導にも本プロジェクトとは別の公的な仕事で携わっている。ファム氏は横浜市の市民通訳ボランティアと小学生の母語支援サポーターとしても活躍している。そのように複言語文化保持者として母語と日本語を駆使して社会に貢献している両氏が、日本語教室においても、日本人と協働して先輩学習者として日本語指導に携わっている姿に間近に見てもらうことによって、自分たちも母語や母文化を大切にしながら日本語を習得し、社会に参加・貢献していく存在であることを認識する機会が提供できたのではないかと考える。

(3) 日本語非母語話者と日本語母語話者がティームティーチングで日本語指導にあたることにより、「共生言語」としての「日本語」は「日本人が外国人に一方向的に教える」ものではなく、「日本人と外国人が共に作り上げていくもの」であることへの気づきを促すことができた：

…(2)と関連して、「外国人」もいつまでも日本語を「教えてもらう」だけでなく、自身も今後、後から日本に来た人たちなどの日本語学習を手助けしていける存在であることを、学習者および、教室実習型研修(体験研修)に参加した受講者の方々にも認識してもらう機会が提供できた。「日本語の勉強、がんばって！」ということばも、日本語学習経験者の先輩が言うのと、日本語母語話者が言うのとでは、学習者に伝わるメッセージが異なる。

尚、今回は中山・ファム両氏に「講師アシスタント」という立場で参加してもらうことから始めたが、本来は両氏のような当事者性をもった人材が「講師」として中心的な役割を担っていく形になることが究極の目標ではないかと考える。体験研修受講者も今回は日本語母語話者のみであったが、今後、外国人として日本語を学んだ経験のある方にも積極的に受講・参加してもらえようようにしていくことが課題であろう。

以上に基本方針【1】【2】【3】に照らし合わせて本プロジェクトを通して実施されたこと及びそこから見てきたことについて述べたが、「研修」としての側面から見ると、本プロジェクトでの成果は、「多文化共生のまちづくり」のための日本語学習支援というものについて、これまでどのように具体的な形で実現するかが文言での説明だけでは伝わりにくかったものが、教室活動の実践を直接に「観察」「体験」することを通して具体的なイメージを持って理解できた、という反応を受講者の方々から得られたことであろう。自身の現場でそれぞれの状況に合わせてどのように応用できるか、積極的に考え、早速に行動に移す動きが出ている。また、それぞれの現場で学習者や関係者と向き合い日本語学習支援の実践している受講者の方々との対話の中で、理念や方法も吟味され、再構築されていく可能性をみることができた。

YOKEのような公的な機関が設置する日本語教室の役割の一つとして、今後、「多文化共生のまちづくり」の理念を具体的に反映する日本語学習支援の具体的なプログラム例を、さらに検討・作成・公開していくことが求められるだろう。それは学習者、支援者、その他関係者と共に対話し、連携をつくり、協働していくプロセスとも連動するものに他ならない。

註：

(*1) 2012年度に横浜市から公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)に委託された「横浜市日本語学習コーディネート業務」は、次の5つの業務から成っていた：①教室実習型研修（日本語教室の実施、②地域日本語教室の状況調査、③「事例発表会」の実施、④日本語学習支援者に対する研修会の実施、⑤地域日本語教室の運営等に対する個別相談

(*2) 日本語教育学会(2008)『平成19年度文化庁日本語教育研究委嘱 外国人に対する実践的日本語教育の研究開発（「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業）報告書』第1章第3節
http://www.nkg.or.jp/book/080424seikatsusha_hokoku.pdf 参照

(*3) 統計的な実証ができる段階ではないが、学習者が授業後さまざまな場面で学んだことばを使って実践をしている様子を目にしたたり、学習者が「実践的で役に立つ」「わかりやすい」「楽しい」「もっと勉強したい」と意欲的に取り組む声をきいたりしたことからの印象による。

(*4) 嶋田和子監修・できる日本語開発プロジェクト著（2011）『できる日本語 初級 本冊』アルク

(*5) 『できる日本語初級』10課では、3つのスモールトピックでの学習のあと、「好きなところ」についての作文例が掲載されており、また、「みんなで旅行の計画を立てて、旅行に行きましょう」というタスクが設定されている。これを、今回の「YOKE 横浜で暮らす人のための日本語教室」の状況に合わせて応用した。

(*6) 公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）編(2012)『YOKE 日本語教室教材例集 話してみよう！わたしのこと 横浜のこと』http://www.yoke.or.jp/8nihongo/8_3kyozaire_shu.html

教室で使用した主な教材(50音順)

- ・『漢字たまご初級』(凡人社)
- ・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』(文化庁)
http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/
- ・『できる日本語初級 本冊』(アルク)
- ・『できる日本語初級』「できること一覧」<http://www.acras.jp/?p=1073>
(日本語版・英語版・韓国語版・簡体字版・繁体字版・ロシア語版・ポルトガル版・スペイン語版)
- ・『日本語初級大地1』(スリーエーネットワーク)
- ・『YOKE 日本語教室教材例集～話してみよう！わたしのこと 横浜のこと』
公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE) http://www.yoke.or.jp/8nihongo/8_3kyozaire_shu.html